

2017年度事業報告

I 法人の概要

【1】 建学の精神

世界音楽並ニ音楽ニ関連セル諸般ノ芸術ハ之ノ学校ニヨッテ統一サレ
新音楽新歌劇ノ発生地タランコトヲ祈願スルモノナリ

【2】 学校法人の主な沿革

1915年（大正4年）	創立者永井幸次により、大阪市南区塩町（現、中央区南船場）に大阪音楽学校を開校
1926年（大正15年）	大阪市東区味原町（現、天王寺区味原本町）に移転
1948年（昭和23年）	大阪音楽高等学校開校
1951年（昭和26年）	大阪音楽短期大学開学
1954年（昭和29年）	豊能郡庄内町野田（現、豊中市庄内幸町）の現校地に移転
1957年（昭和32年）	附属児童音楽学園開設
1958年（昭和33年）	大阪音楽大学開学 大阪音楽高等学校を附属音楽高等学校に改称
1959年（昭和34年）	大阪音楽短期大学を大阪音楽大学短期大学部に改称
1966年（昭和41年）	音楽文化研究所開設（のちに音楽研究所に改組） 附属児童音楽学園を附属音楽学園に改称
1967年（昭和42年）	大学と短期大学部に各音楽専攻科設置 附属音楽幼稚園開設
1968年（昭和43年）	大学院音楽研究科開設 附属楽器博物館開設
1980年（昭和55年）	K号館竣工（音楽文化研究所、附属楽器博物館を移転）
1981年（昭和56年）	附属音楽高等学校閉校
1989年（平成元年）	ザ・カレッジ・オペラハウス開館
2000年（平成12年）	P号館（ミレニアムホール）竣工
2002年（平成14年）	音楽博物館開設（附属楽器博物館、音楽研究所などを統合して改組）
2003年（平成15年）	附属音楽院を開設（附属音楽学園を改組）
2004年（平成16年）	短期大学部を改組、新たにジャズ・ポピュラー専攻開設
2009年（平成21年）	短期大学部を改組、音楽科の下に11コースを置く
2011年（平成23年）	短大専攻科を音楽専攻の1専攻に改組

2012年（平成24年）	大学音楽学部作曲学科・声楽学科・器楽学科の3学科を廃止し、音楽学科1学科を新設、ジャズ・クラシックギター・電子オルガン専攻を開設、短期大学部音楽科にクラシックギター・ダンスパフォーマンスコースを開設
2015年（平成27年）	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部が公益財団法人日本高等教育評価機構による大学・短期大学機関別認証評価の結果、「大学評価基準・短期大学評価基準に適合している」と認定を受ける
2016年（平成28年）	音楽学部音楽学科にミュージッククリエーション専攻・ミュージックコミュニケーション専攻を開設 100周年記念館（新K号館）竣工
2017年（平成29年）	音楽博物館を大阪音楽大学メディアセンター楽器資料館と改称 名神口校地を売却 C号館を解体

【3】 役員・教職員の概要

理 事

理事定数10～15名 理事の現員数10名

理事長	中村 孝義	理事	岡野 幸義
副理事長	本田 耕一	理事	北野 徹
常任理事	十川 輝明	理事	田中 勉
常任理事	中上 善生	理事	永井 譲
常任理事	武藤 好男	理事	福井 慎吾

監 事

監事定数 2名 監事の現員数2名

小林 慶成
花岡 浩二

評議員

評議員定数 21～31名 評議員の現員数22名

大学長及び幼稚園長

大阪音楽大学学長	武藤 好男
大阪音楽大学短期大学部学長	武藤 好男
大阪音楽大学附属音楽幼稚園長	小畑 有子

【4】 設置する学校・学部・学科等 及び 入学定員、学生数の状況（在籍数は2017年5月1日現在）

●大阪音楽大学 音楽学部

学 科	入学定員	3年次編入 入学定員	収容定員	在籍数
音楽学科 (2012年度以降)	210名	30名	900名	743名
器楽学科	(募集停止)			4名
計	210名	30名	900名	747名

●大阪音楽大学 音楽専攻科

専 攻	入学定員	在籍数
作曲専攻	1名	0名
声楽専攻	5名	10名
器楽専攻	14名	15名
計	20名	25名

●大阪音楽大学 大学院

研究科	専攻	入学定員	収容定員	在籍数
音楽研究科	作曲専攻	2名	4名	1名
	声楽専攻	4名	8名	10名
	器楽専攻	7名	14名	14名
計		13名	26名	25名

●大阪音楽大学短期大学部

学 科	入学定員	収容定員	在籍数
音 楽 科	150名	300名	232名
計	150名	300名	232名

●大阪音楽大学短期大学部 専攻科

専攻	入学定員	在籍数
音楽専攻	15名	7名

●大阪音楽大学附属音楽幼稚園

学年	定員	在園児数
3歳児3学級	105名	99名
4歳児3学級	105名	105名
5歳児3学級	105名	97名
計	315名	301名

II 事業の概要

1. 学長選挙規程改定後、初の学長選挙を実施し、本山秀毅教授が新学長に任命された。任期は2018年4月1日から2022年3月31日まで（4年間）とする。
2. 教員の教育、教学運営の充実、研究活動の発展、大学・法人運営力の向上及び執務意欲の向上を目的とした教員評価制度の導入を決定した。今後は2018年度のトライアル期間を経て、2019年度より正式に開始する。
3. 100周年記念館の完成を以って、1966年に竣工したC号館は役目を終え解体工事を行った。また、名神口校地（旧K号館）を売却した。
4. 学生が音楽イベントやプロジェクトの企画・運営を実践的に学べる場としてプロダクション[epoch/C（エポック）]を設立した。この事業は「音楽で、はたらこう。」をキャッチフレーズに昨年誕生したミュージックコミュニケーション専攻とミュージッククリエイション専攻が主体となって動き、社会に適應できる力、実践できるスキルを大学の学びの中で身に付けることを目的としている。
5. 2016年10月31日に竣工した100周年記念館での授業を開始した。当該施設は「楽器資料館」、「録音スタジオ」、「パイプオルガン演習室」の他、約50,000点の楽譜を所蔵する「図書館」といった音楽大学ならではの機能が充実しており、教育研究活動の促進と地域の音楽文化の拠点となることを目指す。
6. 学校法人常翔学園との連携協定締結を記念したプロジェクト「常翔&大音コラボレーション@茶屋町」「ビッグバンドライブー音楽と映像の饗宴ー」を9月14日に大阪工業大学梅田キャンパス内に設置されている常翔ホールにて開催した。当日は両大学の学生、梅田茶屋町周辺地域の方々など490名を超える集客があり、「工学と音楽のコラボレーション」という新たな可能性に挑戦した内容の演奏会となった。さらに、10月からはOITタワー1階ロビーにて本学学生によるロビーコンサートを定期的に開催する等、両法人の活発な交流を開始した年度となった。また、これらの活動は次年度も継続することが既に決定している。
7. 附属音楽院の会員数増加、ニーズの多様化等に対応すべくサテライト教室として「さくら夙川校（西宮市）」を新規に開校した。西宮市という文化・芸術活動が盛んな町で、より地域に根ざした音楽教育を提供することで法人全体が活発化することにも期待している。
8. 庄内校地正門前にM号館を建設し附属音楽院事務室を移転した。旧事務室のあったA号館3階の部屋はミュージッククリエイション専攻の専用教室として改修工事を行い、教育環境を向上させた。
9. 向こう3年の主催オペラを井原広樹、栗國淳、岩田達宗の3名の客員教授が年替わりで演出する「ディレクタ

ーズ CHOICE」シリーズ。その第一弾となる第53回オペラ公演は、井原広樹が演出を担当し、牧村邦彦指揮のもと、キャストには清原邦仁、尾崎比佐子、石橋栄実を配し、モーツァルト『偽の女庭師』を11月3日、11月5日にザ・カレッジ・オペラハウスで上演した。公演は盛況のうちに終演し、2018年（第二弾）の演出を担当する栗國淳へと引き継がれた。

10. 12月6日にザ・シンフォニーホールにおいて、山下一史指揮のもと第60回大阪音楽大学定期演奏会を開催した。ピアノに本学特任講師の田村響（パトリック・ジグマノフスキー客員教授の体調不良による代奏として）、パイプオルガンに本学卒業生で第20回バッハ国際コンクールのオルガン部門で第1位となった冨田一樹が演奏。ブラームス「大学祝典序曲」、ラフマニノフ「ピアノ協奏曲第2番」、サン＝サーンス「交響曲第3番オルガン付き」が披露され盛況のうちに終演した。
11. 3月4日にフェスティバルホールにおいて、ヤン・ヴァンデルローストの指揮のもと第49回吹奏楽演奏会を開催した。全曲自作品となる交響詩「スパルタクス」、「いにしえの時から」など計7曲が披露され会場は多くの観客で埋め尽くされた。
12. 呉信一が客員教授に就任した。

以下 内は事業名を示す。

A 教育・研究事業

【1】大学院・大学・音楽専攻科・短大・短大専攻科

<大学院>

作曲研究室1、声楽研究室10、ピアノ研究室10、管弦打研究室4の計25名が在籍（内、休学1）。各研究室による修士作品・修士演奏及び論文審査、口述試験の結果、作曲1、声楽4、ピアノ5、管弦打3の13名が修了した。大学院生必修の「芸術文化の諸相」の授業を前期は三橋貴風氏（客員教授・尺八演奏家）、後期は大野俊明氏（日本画家）が担当し、日本の文化についての理解を深めた。修了生支援としての「研究生制度」は更新4名、新規9名が各自のテーマに沿って研究を行った。ティーチングアシスタントとして、5名が大学・短大の授業補助を行った。大学院定期演奏会を11月21日に開催、大学院の研究水準の高さを示す機会となった。2018年度入試は、前期25名・後期12名の志願者があり、19名が合格した。

<大学>

音楽学部には747名が在籍し、176名が卒業した（内、前期卒業生8名）。卒業生の中から、最優秀賞4名、優秀賞10名を表彰した。

音楽学部の3つのポリシーに基づき、カリキュラムの一部改定を行った。これは専門科目の統合による専門力の強化と、卒業後の社会人としての資質に関わる能力・知識の向上を図ることを主眼とするものであり、一般教育科目における「キャリアプラン」「メディア論」「データ分析」「からだと健康美」等の新規科目については、2017年度以前の入学者も履修できるようにした。

<音楽専攻科>

音楽専攻科には25名が在籍し、24名が修了した。「音楽実践演習」として、学生自らが企画、演出、出演するオータムコンサートをLICはびきの（10月14日）、京都府中丹文化会館（10月28日）、及び西宮フレンテホール（11月18日）において実施した。

<短大・短大専攻科>

音楽科には232名が在籍し、91名（うち5名は前期）が卒業した。卒業生の中から優秀賞7名を表彰した。また専攻科には7名が在籍し、7名（うち1名は前期）が修了した。

高校生に専門性を伴う授業を定期的、継続的に提供する「オープンカレッジ」は、昨年に引き続きポピュラー、ダンスパフォーマンスの両コースにおいて開講され、多くの参加者を得た。旧K号館を本拠としていたコースは、新校舎（100周年記念会館）での授業を本格的に始動させた。専攻科は独自のカリキュラムである「コンサート・プロデュース」による演奏会をミレニアムホールで開催した。

学長主導の教育改革

●要旨

本学学生が在学中に中学校教諭、高等学校教諭のみならず、通信教育等の方法により小学校教諭の教員免許状をより効率的に取得するための方法を模索すべく、担当理事や事務局長等が他大学に出向きヒアリングを重ねた。

●成果及び達成度

専門実技の習得を学業の中心とする本学学生が、在学中に他大学の単位を同時に修得することは時間的にかなりの負担となることを改めて認識すると同時に、通信教育に必要な学費は大学によって少なからず差異が生じることが明らかになった。

●今後の展望

今回のヒアリングが他大学との連携や提携を幅広く考える契機となった。また、教職課程を維持発展させることが、今後の本学の教育研究において重要であることを再確認した。

ミュージックコミュニケーション専攻 年間イベント

●要旨

豊中市との協働により文化芸術センターのロビーコンサートとして、「コトオト～江戸から現代へ 箏曲から感じる時間旅行」を10月11日に、「野ばら」を2月1日に開催した。その他、「水都大阪・水辺のまちあそび」の一環としてのリバーサイドテラス中之島におけるコンサートを運営し、「庄内つくる音楽祭」のワークショップを複数回にわたってD101教室で実施した。さらに、11月18日には水素エネルギーのPRイベントとして、「H2+♪→H2Brass」を企画・立案し、演奏を管打楽器・ジャズ専攻の学生に依頼した。

●成果及び達成度

学外におけるイベントを大きなトラブルもなく順調に実施することができた。専攻の開設より2年目を迎え、今年度は対象とする音楽のジャンルや演奏形態、イベントの場所等が多様化したことが成果である。また、各学生の積極性に多少の差異は見られるが、音楽プロデュース、マネジメントへのモチベーションは総じて高い。

●今後の展望

2018年度からは有料イベントを企画立案し、必要経費をクライアントへ請求する等、採算性を学ぶことを課題としている。また、DTPの授業が開設されていることもあり、ZINE等の印刷物による情報発信を実践する予定としている。

教員採用試験筆記試験対策講座（Web及び講座）

●要旨

学生及び卒業生の内、教員採用試験受験を目指す者を対象に、教員採用試験筆記試験対策講座を実施した。

当該講座は2014年度より学外業者を指定したWeb講座として実施しており、2017年度も同様に一般教養対策、教職教養対策、論文対策、時事対策を含めた講座として実施した。講座実施期間は年度を跨ぎ1月下旬頃から10

月にかけて実施している。Web講座は、自身の学習に向けた意志の継続が重要で、どれだけ教員採用試験への思いが強いか問われるが、時間を気にせず、自分のペースとスケジュールでの学習が可能という強みがある。個別対策での契約ではなく、一括契約を結んでおり、受講の学生は自身が受験を希望する自治体で課される課題を中心に学習が可能となっている。また、2015年度から導入した公務員筆記試験対策についても同様に、Web講座として公務員（自衛隊、警察、消防）音楽隊を目指す学生などを対象に実施した。

●成果及び達成度

教員採用試験対策Web講座（ガイダンス1回、教職教養対策全24回、一般教養対策全26回、論文対策全11回、時事対策全4回、総まとめ・教職教養全5回、人物対策講座全2回）を実施した。Web講座受講者数は継続者を含めて3名（内訳：大学・3名、新規1名・継続2名）であった。

また、公務員試験対策Web講座<自衛隊・消防・警察対策>（ガイダンス1回（教員採用試験対策と同じ）、警察官・消防官試験対策共通講座全69回、警察官試験対策講座全24回、消防官試験対策講座全20回）を実施した。Web講座受講者数は3名（内訳：大学・3名、新規3名）であった。

過年度受講者を含む教員採用試験受験状況は以下のとおり。

<教員採用試験合格者>

・奈良県1名（2016年度受講生）

<教員採用試験1次合格者>

・大阪府（豊能地区）1名（2017年度受講生） ・兵庫県1名（2016年度受講生）

<公務員試験合格者>

・陸上自衛隊音楽隊1名（2016年度受講生）

●今後の展望

受講生の合格状況についての確認を行うとともに、教員採用試験対策及び公務員試験対策ともに受講希望者が減少傾向にあるため、改めて学生のニーズを調査し、業者・対策講座の見直しを含め検討して行く必要がある。

日本語ライティング支援室運営

●要旨

学生のキャリア形成におけるライティング能力の重要性の認識と向上のため、文書（レポート、エントリーシート、履歴書等）及びデザイン関係の個別指導や講座、広報誌の発行等を、啓蒙活動も行いながら実施した。

また産業界ニーズ事業【テーマB】継続事業である産学協働人材育成機構「AICE」運営に参画し、学生のキャリア形成に有用な講座やプロジェクトを産学協働で実施した。

●成果及び達成度

学生のキャリア形成におけるライティング能力等向上のため以下の事業を実施した。

・社会人基礎力育成支援のため、名刺作成講座を10回実施した。

・社会人基礎力育成支援のため、日本語ライティング支援室にて文書添削の個別指導を行った。指導件数は約450件。

・学内PBLとして、日本語ライティング支援室発行の広報誌『WRITING NOTE vol.18』（A3サイズペーパー、2017年9月発行）に学生記者4名を参加させた。記事作りを通して調査力やコミュニケーション力などを身につけるよう指導した。

また、産学協働人材育成機構「AICE」参加を契機に連携した《有限会社マーケティングメソッド研究所》《株式会社世真》の協力を得て「企業研究講座」を4日間実施し、学生3名が参加。講座中の1日は株式会社世真見学及び社員取材を行い、企業のやりがいや課題を直接的に知る機会とした。またその課題に対する学生の分析

をプレゼンテーションとしてまとめさせ、効果的な伝え方や論旨の組み立てを指導し、講座最終日に企業からの評価を得ることで、学生各自のキャリア形成に対する思考を深め、経験値の蓄積を促すことができた。

●今後の展望

学生のキャリア形成におけるライティング能力の向上については、キャリア支援センターとも調整、協働しながらこれからも推進していく。とくに就職活動等の進路に関わる文書添削・指導については、その方法がキャリア支援センターと相違することなく、調整に努め学生支援を進めていく。

産学協働人材育成機構「AICE」プロジェクト等については、学生のキャリア形成に有用と思われる企画か否かを検証し、有用と判断したものについては積極的に参画していく予定である。また連携できる企業・自治体・公的機関等があれば本学のニーズに合わせた課外講座等を企画、実施していく。

インターンシップ

●要旨

卒業後の進路を考える上での重要な柱の一つとして、インターンシップを実施した。本学のインターンシップは、音楽大学としての学び・専門性を活かすことができるコンサートホール・楽器店・音楽教室・音楽マネジメント・楽団・スタジオなど、音楽業界の企業・団体等の協力を得て行っている。

実施は、夏期（8～9月）、春期（2～3月）の年2回で、1週間～10日程度の就業体験を行っている。学内面接を経て学生の希望や適性に応じた受入機関へ派遣している。

また、派遣前後には事前・事後学習として、受入機関についての企業研究、マナー研修、実習報告会、受入機関へのお礼状送付等の指導を行っている。

●成果及び達成度

インターンシップは次の事柄を目的に実施した。

①本学の教育目標にある「高い音楽能力と幅広い人間力を備えた、良識ある音楽人」を、音楽現場での実施を通じて育てる。

②職業体験を積むことで、学生が音楽業界の実情や企業・団体の仕組みを理解し、仕事への興味や関心を高める。

③学生が自身の強み・弱みに気づき、適性を客観的に考えることで、進路イメージを具体的に描く。

参加人数等は以下のとおり。

□夏期：41名（延べ人数）（派遣企業：20社）

□春期：18名（延べ人数）（派遣企業：12社）

参加した学生にとって、イメージと現実との差異や自信とのマッチング性の確認等貴重な体験となり、将来の進路を考えるきっかけの一つになった。この他にも、一般企業向けインターンシップとして大学コンソーシアム大阪及び兵庫県経営者協会と提携し参加希望者を募ったが、今年度は希望者が無かった。

●今後の展望

2018年度も引き続き年間2回のインターンシップを実施する。

授業をきっかけに学生が個人的に企業へインターンシップ受入依頼を行う事例もあったため、音楽系インターンシップについては新たな希望・団体と内容等調整の上、可能な限り対象企業に加えていく予定である。

また、一般企業へのインターンシップについては、大学が提携を結んでいる「大学コンソーシアム大阪」「兵庫県経営者協会」に加え、就活情報サイト企業の開催（仲介）するインターンシップへの参加促進も含めて、情報提供、サイト登録等を勧めしていく。

キャリア支援講座の企画・実施

●要旨

卒業後の進路・就職を考える上で、必要なマナーや企業就職を目指す方を対象とした自己分析方法やエントリーシート・履歴書の書き方セミナー、必須となるWeb模試や面接対策講座に加え、印象を左右するメイク方法、ピアノグレード（演奏・指導）資格取得を目指す学生への対策講座や就活資格として評価されるTOEIC対策講座などの支援講座を「キャリア支援センター講座」として実施した。また、就職や夢をかなえた卒業生の先輩と直に話ができる座談会形式の「MIRAIカフェ」を6回実施した。

実施する講座の決定には、学生のニーズについてアンケート調査等を行うなどし、定番講座に加えてより希望の多い講座を開講している。これらの講座は、自分の考えている方向性の検証や再考の契機とし、また講座で得たものを進路・就職の活動に活かすことを目的としている。

●成果及び達成度

2017年度は以下の8講座を開講した。講座名と参加人数は以下のとおり。有料講座に加え無料講座・セミナーを増加させ、参加学生数の増加を図った。

- ・ヤマハ音楽ピアノ演奏グレード5級取得準備講座（4回）：大学12名、短大4名
- ・ヤマハ音楽指導グレード5級取得準備講座（9回）：大学15名、短大4名
- ・TOEIC対策講座（10回）：大学3名、短大3名、卒業生1名
- ・就職志望者対象MIRAIセミナー（7回）：①自己PR作成セミナー（2回）：大学15名、短大4名、②業界研究セミナー（1回）：大学7名、履歴書&ES対策セミナー（1回）：大学9名、Web模擬テスト受験会（1回）：大学10名、短大5名、面接講座（基礎編）（1回）：大学22名、短大1名、卒業生1名
- ・面接対策講座（応用編）（1回）：大学8名
- ・就活メイク講座（1回）：大学5名、短大1名、卒業生1名
- ・And Vision主催音楽留学セミナー（2回）：大学27名、卒業生1名
- ・MIRAIカフェ（6回）：大学14名、短大10名、短専1名

上記以外にも企業就職志望者を対象とした「SPI性格検査」「就活how-toセミナー」や「ヤマハ音楽指導グレード5級トライアル講座」などを実施した。2018年度就活に向けて講座等の参加者が増加傾向にあり、また相談や履歴書・エントリーシート添削、面接練習希望も増えており、これらの講座やセミナー等の効果があった。

●今後の展望

ヤマハグレード対策等定番の講座に加え、学生アンケートの結果を検討して新しい講座を開催する。特に、音楽系を含む企業就職を希望する学生が増加傾向にあることを考慮して、就職活動に活かせる講座、セミナーを回数を増やす事によって内容の充実を図る。中でも面接講座については、グループディスカッション、集団面接、個人面接など面接の形式に分けて実施する。さらに、企業が行う夏期インターンシップについても就活情報企業（マイナビ、リクルートキャリア等、学情等）と協力して情報提供、周知を進めて行く。

学生面談（進路・就職：大学3年生、短大1年生中心）の実施

●要旨

毎年度、「卒業後の進路をともに考える」をモットーに、時期を設定して予約制の定期個別面談を実施している。今年度は、卒業学年の大学4年次生、短大2年次生は5月から7月にかけて、また就活時期を迎える大学3年次生、短大1年次生は11月から12月にかけて行った。個別面談は学生自身の進路への考えやニーズを知ることができる重要な柱の一つとして位置付けとしており、学生一人ひとりと時間をかけて向き合うことを心掛けている。定期面

談後も継続して個別対応を実施し、学生との信頼関係の構築を図り、希望進路にそった求人等について紹介するなど引き続き卒業まで支援を行っている。この定期面談以外にも年間を通じて学生面談を随時実施している。また、次年度就活開始学年となるミュージッククリエーション専攻、ミュージックコミュニケーション専攻について教員の協力も得て個別面談を実施した。

●成果及び達成度

卒業・修了学年については面談を実施した人数は次のとおりである。

- ・大学4年次生：23名、短大2年次生：14名

卒業学年のため、面談において希望業種、職種等把握できた方には求人紹介を行い、エントリーにつなげた。就活直前となる大学3年次生、短大1年次生については、前年の面談率を上回ることを目標に実施し、大学は70%と達成できたが、短大は47%の面談率となり今後の課題として周知、誘導方法等検討する。人数は以下のとおり。

- ・大学3年次生：109名、短大1年次生：50名

キャリア事務部門として5つの進路方向を基本と考えているが、学生の進路希望は様々でそれぞれの希望に向き合っていくことを心掛けてきた。また、今年度は一般企業就職系の講座、セミナーも「キャリア支援センター講座」に位置付けて複数回実施、その成果か企業合同説明会等への積極的な参加やエントリーが増加し、履歴書・エントリーシート添削や面接練習・相談を希望する学生が多く来室した。専攻による特徴はあるが、例年に多く多くの学生が早期から活動を開始していた。

また、ミュージッククリエーション専攻、ミュージックコミュニケーション専攻の2年生に対し、担当教員の協力も得て他専攻に先駆け個別面談を実施、現状での学生の進路に対する考え等を確認した。この情報は専攻担当教員とも共有し、今後の学生の進路指導等に活用する。

- ・ミュージッククリエーション専攻生：17名(100%)
- ・ミュージックコミュニケーション専攻生：6名(67%)

●今後の展望

学生の進路希望を把握するツールの一つとして「進路調査カード」の提出を各学生に要請している。面談来室率に直接関係するため、このカード配布率、提出率を上げるため、ガイダンスだけではなく、教員等に協力を依頼して授業内での告知や教員からの呼びかけ等行うことを検討する。現状の提出率は大学73%、短大50%で、ともに70%を超える提出率を目標としたい。また、「音楽で働く」を卒業後の目的としているミュージッククリエーション専攻、ミュージックコミュニケーション専攻の学生が就活年度を迎えるため、個別面談の早期実施と面談で把握した希望企業への訪問や求人への獲得を従来よりも幅を広げて実施する。また、郵送による求人依頼も併せて実施する。これは企業からの新しい求人の掘り起しにつながっており、今後も継続して実施していく予定である。

プロダクションの設立

●要旨

学生の実践的な学びや経験の場として、また大学と社会をつなぐものとしてミュージックコミュニケーション専攻及びミュージッククリエーション専攻の2専攻が主体となり設立、両専攻の教員、助手を運営の中核として事業展開をした。この事業は、学生が将来音楽で働くための実践的な活動の場を提供することを主目的とし、働くことの一面を経験することで学生のキャリア形成への意欲を刺激し、卒業後のイメージの具体化に寄与することも目的とした。

事務所としたH号館324教室のインフラの整備後、実質的には6月からミュージッククリエーション専攻のプロダクションを中心に収支バランスを考慮した事業展開を行った。なお、ミュージックコミュニケーション専攻のプ

プロジェクトについては、一部を除き授業カリキュラムに組み込まれたものが多く、本プロダクション事業と授業の関係が複雑化することを避けるため、授業カリキュラムに一本化することを決定し、本プロダクション事業とすみ分けることを期中に決定した。

●成果及び達成度

2017年度は学生の学外プロジェクトやスタジオミュージシャン育成プロジェクト、プロダクションプロジェクトとして以下の9プロジェクトを実施した。参加した学生、卒業生の人数は以下のとおり（教員・学外業者等は除く）。

〔ミュージッククリエーション専攻プロジェクト〕＊音楽制作等

・広島ポップカルチャー（学生12名） ・天平祭七夕祭り2017光の舞（学生15名） ・フィロスWeb-CM制作/録音（学生2名、卒業生2名） ・スタースカウト総選挙テーマソングコンペ（学生5名） ・映画「パパはわるものチャンピオン」劇伴曲制作/録音（学生5名、卒業生14名） ・アイプロX第1期（学生3名） ・マロニエファッショングランプリ（学生17名） ・NHKラジオドラマ（学生9名）

〔ミュージックコミュニケーション専攻〕

・豊中文芸センターロビーコンサート

上記以外にもミュージッククリエーション専攻では、「Demo送付支援」として学生が制作した音源を学外プロダクション等へ送付する事業も実施。学生1名あたり10社への送付を課し、約390通（内、海外3通含む）を送付し、教社からの反応が直接、学生宛にあった。

●今後の展望

学生の音楽制作の実践的な場となる学外プロジェクトは次年度さらに拡大して実施する予定。ミュージッククリエーション専攻の教員を窓口に通年度より継続している事業に加え、映画劇伴曲制作をプロジェクトとして増やしていくことを予定している。また、録音スタジオを中心にスタジオミュージシャン育成プロジェクトも継続して実施し、演奏員を中心とした卒業生のミュージシャン育成にも寄与する。

今後もミュージッククリエーション専攻教員、助手とキャリア支援センターの連携を今以上に密にして事業展開を行う予定である。

【2】国際交流

2017年度は以下の3名が海外提携校留学助成金制度の適用を受け、海外の大学や音楽院で学んだ。

- ・大学2年 ピアノ（演奏家特別コース） 王立ウェールズ音楽演劇大学（イギリス）
- ・大学3年 ピアノ（ピアノ・コース） フォルクヴァング芸術大学（ドイツ）
- ・大学4年 ピアノ（演奏家特別コース） フォルクヴァング芸術大学（ドイツ）

また、本学学生の送り出しに対し、海外提携校から以下の留学生1名を受け入れた。

- ・王立ウェールズ音楽演劇大学（イギリス） 大学作曲専攻

なお、 Semester制が定着し、単位の実質化が重要視される中で本学学生の留学中の単位認定のあり方について検討を重ねることが今後の課題となっている。

【3】学生生活支援・福利厚生

インテーカーが行うワークショップや学生同士の口コミの影響もあり、学生相談室の利用率が高まっている。相談室から自立する学生もいる一方、利用者が落ち着きを取り戻す場所として学内で重要な場所となっている。2017年度の来訪者は延べ1,560名であった。

経済面の支援では本学独自の奨学金制度である「大阪音楽大学奨学事業団奨学金」の2017年度における貸与者

は大学15名（大学院0名）、短大4名であった。教育の無償化の流れの中で学生支援機構による奨学金の貸与を受け
るための条件が緩和されたこともあり、利用者は減少傾向にある。

学習支援室の設置

●要旨

2017年度より作曲資料室を改編して「学習支援室」を開設し、本学大学院作曲専攻の修了生2名が主として音楽
理論、ソルフェージュの個別指導を行うこととした。この結果、大学・短大合わせて66名の学生が複数回、ある
いは継続的にこの制度を利用し、スケジュールの都合から指導者の勤務時間が超過することもしばしば見られた。

●成果及び達成度

科目数は限られているが、授業時間外の個別指導による学習支援が定着した。

●今後の展望

IR委員会によるデータ分析では当該科目のGPAが中程度の学生が利用している事例が多く見られることから、
今後、本来支援が必要な学生の利用を促すことが課題である。

大学祭開催・自治会活動に対する支援について

●要旨

今年度はミュージックコミュニケーション専攻の学生が中心となって実行委員会を組織し、初めての試みとし
て日程を1日に短縮して第2キャンパスで大学祭を実施した。また、学生自治会の下で新たに演劇部、合唱同好会
が発足した。学生による自主演奏会は年々活発になるが、大学祭や自治会活動に積極的に参加する学生は依然と
して減少傾向にある。

●成果及び達成度

大学祭ではO号館、K号館にそれぞれ会場を設け、学生主体の演奏、外部ゲストによるバンド演奏を同時に公開
することとなった。また、「憩いの広場」への模擬店の出店は4件であった。クラブや同好会に関しては、その活
動実態が明らかになっていない事例もあることから、部室の整理等を継続的に指導している。

●今後の展望

過年度の「学祭プラス」に代表される学生の活発な自主活動を大学祭に取り入れることが今後の大学祭の課題
である。また、音楽マネジメントを学ぶミュージックコミュニケーション専攻生を中心とする自治会の活動を大
学として支援する。

【4】教員の研究活動

本学の助成による研究活動は、通常研究5件、特別研究（学術分野）1件、特別研究（芸術分野）5件研究成果出
版（CD）1件であった。『大阪音楽大学研究紀要第56号』（論文4編、研究ノート1編を収録）は、3月末にホームペ
ージ上に公開した。

研究委員会は11回開催され、助成申請のあった研究課題に対する審査、『大阪音楽大学研究紀要』の投稿論文等
の査読と掲載の可否の決定、図書館の購入資料と除籍資料の選定、及び研究関連の諸規程の制定及び改定を行っ
た。

科学研究費の助成については、主担研究課題が1件であった。

FD推進

●要旨

今年度は前後期にわたって、教員の相互研鑽を目的とした「授業見学」を本格的に設定し、全授業科目を対象に全教員による授業参観のシステムを継続した。教員に対する認知度は拡大したが、担当時間割の関係などにより十分な参加者を得られたとは言い難く、一層の活性化が今後の課題となる。またFD総括委員会の活動の一環として、年度内に外部講師による2回の講演会（「FDの多面性と本質（様々な視点からのFD）を考える」）を実施して、各回約20名の参加を得、同委員会で意見交換を行った。

【5】自己点検・評価体制

本学は「自己点検・評価組織規程」に基づき、7年間に2回の周期で全学的な「自己点検・評価報告書」を発行しており、2017-18年度はその作成時期にあたる。今年度は、日本高等教育評価機構が定める評価基準に従って2015-2017の3ヶ年度に関する同報告書の初稿を作成した。同報告書は今後の校正・確認を経て、2018年5月に完成予定である。

自己点検・評価 「授業評価アンケート」

●要旨

自己点検・評価活動の一環として、講義・演習形態の全開講科目（リレー授業等の一部科目を除く）については2017年度の前期及び後期に、「個人指導による音楽実技」（レッスン）科目については後期において、「学生による授業評価アンケート」（無記名式）を実施した。回収したアンケート用紙は、教育課程別・科目分野別・科目別等に集計し、各教員には当該アンケートの集計結果及び印字処理した形で受講者の記述内容を通知した。

●成果及び達成度

1単位につき45時間の学修を基本とする単位制度の実質化を推進するため、アンケートの設問に「宿題の実施、書籍・プリントを読む、楽曲の練習・聴取、発表の準備など、教員から授業外の学習について指示があった。」を加えた。これにより過年度と比較して、受講者の学修時間に有意な進展が認められた。また、その他の設問の文言について、受講者が理解しやすい表現に改めた。

大学及び短大の全教育課程を総合した全演習・講義科目のアンケート実施率（後期）は、89.27%、全受講者の回答率は73.50%、レッスン科目の回答率は71.91%であった。今後も同アンケートを継続してデータを蓄積し、教育改善に向けた議論の基礎資料として自己点検・評価統括委員会や大学・短大の運営会議等において活用する。

●今後の展望

教育課程別では大学院の講義・演習授業、部会別では教職部会の実施率がやや低調であった。次年度はさらにアンケート実施の周知を徹底する。また、統計的推移の把握や過去のアンケート項目との整合性を踏まえた上で、学生の能動的な学修行動を測るための設問項目を検討する。

授業改善計画書

●要旨

2016年度後期の「学生による授業評価アンケート」の集計結果をもとに、専任教員が担当する全科目（リレー授業等の一部科目を除く）及び専任教員以外の有志教員による授業改善計画書を作成した。これら個別の授業改善計画書は講義・演習科目については教育課程別に、レッスン科目については教員別に集成し、「授業改善計画書2106年度後期」（全304頁）として2017年6月に発行した。同書は授業評価アンケートに対するフィードバックとして、学生及び教職員が自由に閲覧できるように、附属図書館、学生支援センター、教職員集会室等に配備した。

●成果及び達成度

授業改善計画書については、ある年度末の作成をもって、直ちに次年度における明瞭な効果を期待することは

難しい。計画書に基づく改善を実施しても、次年度は成績等への反映が認められなかったが、その次の年度には一定の成果があったというような流れを繰り返すことにより、授業の内容や実施方法、学生の学習時間等の実質的な改善の進展が期待される。

授業改善計画書の作成が、各教員が授業の内容と運営を振り返る契機となること、冊子としての集成が、授業改善に関する「気づき」を他教員に伝える媒体となることにより、本学全体の教育の質の向上に役立つことが期待される。

●今後の展望

授業改善計画書には、授業改善に関する「気づき」を他教員に伝える媒体としての役割があることに着目し、次年度以降は、新たな教育法や学習促進に効果のあった事例を紹介できる項目を設けるとともに、有用な記述を集めた事例集を作成し、同計画書の作成時に配付する。

【6】 付属図書館

2016年度末に資料の新校舎への移動が無事に終わり、2017年度当初は各資料の配架場所や館内の動線、備品の配置を確認する等、4月5日の開館に備えた。学生の利用状況は、大学院生の書庫内利用が大幅に増加したものの、全体数としては前年度と比較して大きな差異はなかったが、学生の利用をさらに促進するため、書庫見学ツアーなどのイベントを実施し、一定の成果が見られた。

著作権法では一曲の半分まで、あるいは一曲の歌詞の半分まで楽譜を複写することが可能であるが、図書館のカウンターにおいて利用者がコピーした楽譜が半分以下であることの確認が現実的には不可能であるため、2017年度より、館内での楽譜コピーを全面的に禁止した。また、映像資料の館外持ち出しは、教員の授業での利用、及び授業教材を選定する目的以外は不可とした。

6月以降、閉架書庫内の湿度が上昇したことから、複数台の除湿器を設置し対応した。その後、設計者に意見を求めたが、対策については今後の課題である。

2018年度より授業期間中の土曜日（年間30回）について、閉館時刻を13:30から15:00に改め、開館時間を延長することを決定した。また、2018年度よりWeb資料の内、利用が少ない外部データベースの契約を解約し、新規に需要の多いビデオライブラリーと契約することとした。

E号館収蔵の資料の内、除籍が確定した資料についてラベルの剥離等の作業を施した。この結果、2017年度中に新規に受け入れた資料を含め、2018年3月31日現在の資料数は図書・楽譜を合わせて約113,000点、視聴覚資料が約54,000点となった。

付属図書館 資料の整理作業

●要旨

今後の教育研究に役立てるため、前年度の研究委員会の審議を経て除籍が確定したE号館収蔵の洋書約7,500冊、和書約2,500冊に関して、非常勤を含む教員に対して希望する資料の引き取りを呼びかけた。また、1月の研究委員会においてベータ方式のビデオテープ約1,100本、一般和書約1,000冊の除籍を新たに提案し、各委員が現物を確認した。2018年度早々に除籍を確定する予定である。

●成果及び達成度

新校舎の書架に収蔵できていない資料の整理について一定の目途が付いた。

●今後の展望

E号館収蔵の資料の内、除籍しない図書や新規購入図書の配架場所の確保が必要なことから、次年度は集密書架の増設を計画する。また、視聴覚資料の内、現在では用いられることが少ないメディアに関しては再生機器の間

題も含めて今後のあり方を検討する。

【7】楽器資料館

音楽博物館からの移転・楽器資料館の開館については、2017年3月に移転作業を終え、新規開館後も引き続き展示を整えた。2017年4月1日の改組により、音楽博物館を大阪音楽大学音楽メディアセンター楽器資料館と改称し、楽器資料館の統括及び代表者は、音楽メディアセンター長とした。

収集・公開される資料の対象分野は「世界の楽器及び関連資料」「本校校史」「日本伝統音楽資料」とした。展示室は「日本の伝統音楽・芸能で用いられる楽器」「ヨーロッパのクラシック音楽で用いられる楽器」「世界各地の民族楽器」の3つの区画に分けて展示を行い、学内外に公開を開始した。また、楽器資料館隣室の展示コーナーで、本学創立者・永井幸次の関連資料と本学の学校史の展示を開始した。

2017年度より、本学学生、本学教職員以外の一般入館者に対して、入館料の徴収及び事前予約制を開始した。本学卒業生、豊中市民に対しては入館料の軽減制度を設けた。2017年4月の新校舎使用開始に伴う混乱を回避するため、一般個人の利用受付は5月から開始、一般グループ見学の受付は10月から開始した。

楽器資料館所蔵の図書・視聴覚資料の利用を、本学図書館の利用方法に準拠し運用を開始した。楽器資料館の所蔵図書・視聴覚資料の蔵書点検や資料管理に活用すべく、バーコードシールを貼付し、データベース管理を開始した。

人的配置の変更点としては、パートタイム職員による業務を終了し、派遣会社への業務委託を開始した。

入館者対応の面では、新校舎に移転し本校に近くなったことから、本学学生のレファレンスが微増傾向にあるため、学生の学習意欲増進につながるよう丁寧な情報提供を心がけている。新たに開始した、一般来館者に対して入館料の徴収、ホームページでの事前予約制については、特段の混乱はなく順調に運用することができた。ホームページ上での開館情報確認後の利用申込が7割程度と当初予想を上回り好調で、電話予約も受け付けているため、事前予約制は継続していく予定である。校舎内で、週2日（月・土曜日）を一般公開とするため、保安面での懸念があったが、入館料徴収と第2キャンパス警備室との連携を密にして運用を開始したことにより、来館者によるトラブルは発生していない。

2017年10月より月2回程度「学芸員による展示解説」を開始した。入館料と別途500円の参加料が必要であるが、参加者の満足度は高い。今後、この企画を楽器資料館の地域開放事業の軸として定着させる。また、楽器資料館利用者の情報取得はホームページ利用が多いことから、さらにホームページによる情報発信を充実させることが必要である。

新校舎展示室の天井灯、スポットライトがすべてLED照明になり、照度が上昇したことにより、楽器細部を見ることが可能になった。このことから、楽器名表示キャプション、スポット解説の大幅見直しを開始した。新しい研究成果の出版物を底本と定め、これらに基づいた解説文に改訂する。また、日本の楽器名に難読漢字が多いためルビを付すことを推進していく。展示ケースは旧来のものを使用している。2018年度からケース内照明器具をLED照明に交換し、さらに見やすい展示を展開していく。入館料を負担する来館者がより高い満足度を得られる展示を目指す。

楽器資料館が加盟する「かんさい・大学ミュージアム連携（全18館）」との連携を密にし、館相互の交流を深めた。かんさい・大学ミュージアム連携事務局をとおして提出した企画案が「平成29年度文化庁 地域を核とした美術館・歴史博物館支援事業」で採択され、大阪芸術大学博物館との連携講座『音楽を再生する道具とその変遷』を展示室とパイプオルガン演習室で2017年10月28日に開催した。

音楽博物館における蔵書点検

●要旨

音楽博物館所蔵の図書・視聴覚資料にバーコードシールを貼付し、蔵書点検の効率化をはかった。

●成果及び達成度

図書資料のバーコードシール貼付は完了した。

視聴覚資料のバーコードシール貼付率は5割程度にまで進捗した。

引き続き、戦前に出版された楽譜（国立国会図書館DB「近代日本刊行楽譜総合目録」対象資料）及び、館所蔵「二世鶴澤清八浄瑠璃本コレクション（1601点）のバーコード管理にも着手する予定である。

●今後の展望

スタッフの記憶に依存していた資料管理から脱却し、データベースの完成度を高めるべく上記作業を推進していく。

【8】 付属音楽幼稚園

在園児は5月1日付で301名（3歳児3クラス99名、4歳児3クラス105名、5歳児3クラス97名、前年度比2%減）、3月には96名が卒園した。2歳児親子教室「りんごクラブ」は35組募集のところ前期（5月～9月）は75組、後期（11月～2月）は50組の申込があり、昨年度同様クラスを増設した。音楽教室クレフ（希望者対象の課外レッスン。ピアノ、ヴァイオリン、マリンバの3種）は受講者が5月1日付で126名、対象園児の62%が受講した。（前年度比13%増）また、子育て支援の一環として1歳児の親子を対象に「きらり」を月1回程度実施しているが、今年度の参加者は全221名、2017年度の入園者の56%がきらり参加者であった。

創立50周年記念事業

●要旨

幼稚園創立50周年を記念して「親子で聴く音楽会」にて音大生フルオーケストラによるコンサートを開催するとともに、創立50周年記念ロゴを作成し、種々の園行事において創立50周年のアピールを行った。また、将来に残る記念事業として、かねて保護者等から要望のあった、老朽化した屋外の手洗い場、足洗い場の全面改修を実施した。

●成果及び達成度

広報活動の一環として、本園ならではの記念コンサートの開催により、保護者の高い評価を得るとともに、外部への当園のアピールにつながった。手洗場の改修により冬季は給湯対応も可能になり、園児・保護者・親子イベント参加者・教諭もとても満足している。夏期休暇中に改修されて清潔感のある幼稚園らしい手洗い場になり、見学者の評価も高い。

●公的助成・民間助成

子育て支援の一環として、豊中市の「地域に開かれた幼稚園づくり事業補助金」の助成を得た。

●今後の展望

当園の貴重な財産である、「裸足で駆け回れる広い芝生の園庭」に加え、「冬は温水の出る手洗い場」も幼稚園見学者に強くアピールしていきたい。

少人数制の音楽指導「POCO」について

●要旨

保育の中で年中・年長児がグループに分かれて専門講師とともにキーボード・ヴァイオリン・打楽器をローテーションして体験する。

●成果及び達成度

楽器の演奏を通して楽器に興味を持つことで、グループで演奏する楽しさを味わい、達成感を持つことができた。達成感が自信につながり、積極的に物事に取り組む園児を育てることにつながることができた。

●今後の展望

POCOでの経験が子どもたちの自信につながり、さまざまな活動に意欲的に取り組める園児を育てたい。

子育て支援

●要旨

園児の預かり保育、2歳児の親子教室「りんごクラブ」と1歳児・2歳児の親子イベント、保護者のカウンセリングを行う。

●成果及び達成度

園児の預かり保育については 水曜日が課外音楽教室「クレフ」があるため、並行して実施することが難しく、そのため月曜日から土曜日をすべてカバーできていない。しかし利用者は現在のところ順調に推移している。また、土曜日の実施についてはバス運行もあり、好評である。

2歳児の親子教室「りんごクラブ」は、前期は定員の約2.1倍、後期は約1.4倍の申込があり、約51%が2018年に入園した。

保護者のカウンセリングはカウンセラーへの信頼感もあり、リピーター利用者も多い。

●今後の展望

未就園児の親子教室やイベントについては特に新入園児の獲得につながるため、更なる内容の充実と参加者の増加を目指したい。保護者のカウンセリングについては更に充実したカウンセリングを提供していきたい。

B 社会連携活動事業

【1】アドミッション事業

各種入試広報活動において、志願者への伝達力を高めることを意識し展開した。

イベントの案内チラシやパンフレットなどの広報ツールはデザイン・掲載内容を刷新し、志願者への伝達力を高めた。

オープンキャンパスは年3回開催し、専攻・コースごとに公開授業や在学生の演奏などを行い、参加者に対し教育方針や指導力を伝えた。

また、無料体験レッスンイベント「トライアルレッスン」を年2回開催し、随時受付を行っている有料体験レッスン「キャンパスレッスン」とともに志願者層と本学教員が接する機会を創出した。

進学相談会については、オープンキャンパスなど本学イベント時での実施や、専門業者が主催する高校や会場での開催に積極的に参加し、高校生や保護者と会話する機会を増やした。

その他、各専攻・コースにおいて、高校のクラブや指導者を対象としたセミナー等を開催し、本学への興味や関心を喚起した。

ピアノ指導者対象セミナーの実施

●要旨

ピアノ指導者と本学との信頼関係を構築するため、ピアノ指導者を対象としたセミナーを開催した。

●成果及び達成度

2017年度は7月に「ピアノと脳」をテーマとした脳科学者の講演、パネルディスカッション、懇親会を実施し、多くの来場者があった。

●今後の展望

継続的にセミナーを開催し、指導者との更なる関係構築を図る。また、セミナーの内容についてもより実践的なものとし、本学の教育、環境等を理解してもらう機会とする。

専任職員による高校訪問プロジェクト

●要旨

2016年度開設の2専攻「ミュージッククリエーション専攻」と「ミュージックコミュニケーション専攻」の浸透を図ることを目的に一昨年より実施している全専任職員による高校訪問活動。2017年度は入試制度の案内も併せて広報活動を展開した。

●成果及び達成度

6月に全専任職員が分担して近畿圏の高校約150校を訪問した。

進路指導室を訪問し、2専攻の案内、生徒への広報を依頼することに加え、音楽系クラブ担当教員に本学入試制度の案内を行った。

●今後の展望

高校への広報活動としての意義に加え、専任職員の学生募集に対する意識向上を図り、全学的な広報力強化を図る。

ポピュラーコース・オープンカレッジ

●要旨

高大連携の提携校である帝塚山学院高等学校の生徒を含めたポピュラー音楽に関心のある高校生対象に、年間16回のポピュラー音楽講座を開講した。

提携校に対しては本講座受講を条件とした「高大連携特別入試」も実施している。

●成果及び達成度

2017年度はこれまでの講義中心から演習の要素も取り入れた形で授業を展開した。

参加高校生にとっては、大学でのポピュラー音楽の学習を先取りして体験する貴重な機会となっており、各講義についても満足度の高い結果を得ることができた。

●今後の展望

本講座受講を契機に、本学を志願する受講生が増えるような事業としていく。

オープンキャンパス

●要旨

2017年度オープンキャンパスは、夏（7月23日）・秋（10月9日）・春（3月25日）の計3回開催した。

専攻・コース別体験授業、カリキュラム・入試課題解説、個別相談のほか、在学生による演奏、交流会、施設見学ツアーなども行った。

●成果及び達成度

教員による各専攻・コースの案内により指導方法や在学生の充実度を、また個別相談会や施設案内ツアーを通じ入試制度や教育環境の理解を深めてもらう機会として実施した。

●今後の展望

各専攻・コースの教員、教育内容の魅力を理解してもらう場とするとともに、在学生を中心とした運営を通じ、来場者がより本学を身近に感じる場としていく。

吹奏楽フェスティバルの開催

●要旨

2017年度は6月4日に、部活動で吹奏楽に励む中・高校生やその指導者を対象に、吹奏楽コンクール課題曲の本学学生による全曲演奏や教員による楽曲分析を展開した。また、今回新たに木管、金管、打楽器のセクション別講習会も行った。

●成果及び達成度

1,000名を超える中・高校生が訪れ、各イベントが定員に達する状況であった。吹奏楽コンクール課題曲の学生の演奏や教員の指導を通し、本学の教育を伝える良い機会となった。

●今後の展望

来場者のニーズに応えるため、各イベントの更なる充実を図る。また、本学教員、施設、学生を知ってもらう機会として捉え、本学に対する興味喚起を促す。本イベントの広報活動を強化し、参加校数の増加も目指す。

軽音楽フェスティバルの企画

●要旨

高校生に対し、本学ポピュラーコースの認知度向上、教育環境や教員の充実を体験してもらうことを目的とし、近畿高校軽音楽連盟に加盟する軽音楽部員を対象とした本学主催の軽音楽フェスティバルを企画しており、2018年8月上旬に開催予定である。

●成果及び達成度

本学教員によるパート別クリニック、高校生、本学在学生・教員、ゲストによるライブ等について実施内容を固めた。来場者数は夏・秋は各約700名、春は約500名を予定している。

●今後の展望

2018年度初頭より近畿各府県の軽音楽連加盟校に参加を募る。次年度以降、高校軽音楽部の夏のポピュラー・ミュージックイベントとして定着を目指す。

関西圏以外での継続型声楽セミナーの実施

●要旨

声楽分野において、遠隔地域からの志願者を獲得するため、各地域において、声楽セミナー（実技レッスン）を開催した。継続的に実施することで、本学教員と遠方地域の高校生との信頼関係を深めることを企図した。

●成果及び達成度

岐阜、福井、徳島、岡山、北九州、福岡、大分でセミナーを実施した。地域の卒業生、高校教員等の協力を得るなどして参加者を募った結果、初回には一定数の参加があった。ただし、継続的な参加については課題を残した。

●今後の展望

継続的な開催が見込める地域もある一方で、本セミナーから志願に結びつけることへの難しさも感じるなど、今後の展開を再検討していく。

【2】 対社会事業

<キャリア関連>

●2017年度進路調査結果（2018年3月卒業生、2017年9月卒業生含む）

区分		大学	短大	大学院	音楽専攻科	短大専攻科
就職	音楽教室（企業）	28	7	2	6	3
	音楽教室（企業）	1	2	1	3	0
	演奏活動	2	2	1	2	1
	企業	44	12	3	5	1
	教員	25	5	1	3	0
	公務員	1	4	0	0	0
	その他	15	12	1	1	0
	小計	116	44	9	20	5
進学		42	27	3	2	1
その他	アルバイトしながら演奏活動	9	16	1	0	0
	その他（進学・就職準備等）	9	4	0	2	1
	小計	18	20	1	2	1
卒業・修了者数		176	91	13	24	7

<エクステンション関連>

エクステンション関連事業として教員免許状更新講習を9講座11日実施し、受講者は516名であった。（人数は延べ数）

<連携関連>

連携支援センターでは、大学の教育研究活動の一端を地域社会に還元することを目的として、地方自治体・公共団体・自治会・公民館・ボランティア団体・一般企業等さまざまな分野の団体と連携を結び社会貢献活動を実施している。当センターの連携関係事業は、大きく分けて社会学連携事業、公開講座、依頼演奏に分類することができる。

■社会学連携事業

・地域社会との連携

- ①豊中市との共催で「とよなか音楽月間」「ミュージカル公演&ワークショップ」「市民ロビーゆうゆうコンサート」「第3回豊中音楽コンクール」等の実施、豊中中央ライオンズクラブ及び豊中市との共催で「豊中子ども音楽フェスティバル」を実施した。また、豊中中央ライオンズクラブの運営資金援助により「市立豊中病院ランチタイムコンサート」を開催した。また、今回で9回目となる、大阪大学・大阪音楽大学ジョイント企画「月と音楽」の公演を大阪大学・大阪音楽大学・豊中市の3者共催事業として実施した。
- ②豊中市野田校区社会福祉委員会の依頼により、本学の学生サロンばうぜを会場として「いきいきサロン」の催事名称で地域のお年寄りたちの憩いの場を提供するとともに、本学の在学生によるコンサートも開催した。
- ③寝屋川市との包括連携協定により、市主催事業の「アルカスピアノコンクール」への審査員紹介や、ミュージカル「寝屋のはちかつき」公演の制作協力等を行った。
- ④公益財団法人川西市文化・スポーツ振興財団との連携により、川西市吹奏楽連盟主催の吹奏楽楽器別講習会を、本学学生を講師として実施した。

⑤特定非営利活動法人大学コンソーシアム大阪との連携により、本学を会場として「中学生サマーセミナー ミュージカル講座」を実施した。

■公開講座

豊中市、高槻市、羽曳野市、NPO法人大阪府高齢者大学校等、自治体・公共団体と連携協力して提携講座の実施や講師派遣等を行った。

- ①豊中市：中央公民館との共催による大学開放講座「音楽・心の旅」
- ②高槻市：けやきの森市民大学 大阪音楽大学公開講座「音楽の宝宝箱」
- ③羽曳野市：はびきの市民大学 講座への講師紹介
- ④大阪府高齢者大学校：講座への講師派遣やコンサートの実施

■依頼演奏

地方自治体、公共団体、公益法人、ボランティア団体、学校、企業及び個人等から多数の演奏依頼を受け、一定の演奏水準を保ちつつ卒業生支援の一環として演奏者の手配・派遣・紹介等マネジメント業務を行っている。これは卒業生の活躍の場を確保するとともに大学の広報活動の一翼を担った事業でもある。また近年は、在学生でも特に優秀な個人やグループに演奏を依頼し、実地研修の場として活用している。

教員免許状更新講習事務室の運営

●要旨

対社会貢献の一端及び教員養成課程を有し、教員を輩出している大学としての責務として、教員免許状更新講習を実施した。音楽系講習は全国的に少なく、特に関西圏において中心的役割を果たしており、社会の要請に応えるものとなっている。

受講時間は、必修領域6時間（1科目）、選択必修領域6時間（2科目の内1科目選択）、選択科目18時間（6科目の内3科目選択）で合計30時間の受講が必要となる。修了確認期限前2年間で履修するもので、期限を迎える方や卒業生を優先する方針を取っており、7月から8月にかけて学校教員が受講しやすい期間に実施している。

●成果及び達成度

現役の教員の方で修了確認期限に該当する方、今後、講師登録等をして教員を目指す方を対象に2017年度は次の講習を実施した。受講者数は以下のとおりである。

- ・[必修]「教育の最新事情」 64名（定員70名）
- ・[選択必修]「学校を巡る状況変化と教育改革」 34名（40名）
「特別支援教育の視点からこれからの授業を考える」 28名（30名）
- ・[選択] 「日本伝統音楽」 44名（45名）
「雅楽基礎講座」 27名（20名）
「打楽器指導法」① 47名（30名）
「打楽器指導法」② 45名（30名）
「合唱指導法」① 85名（65名）
「合唱指導法」② 87名（65名）
「指揮法の基礎と実践」 25名（20名）
「リコーダー指導法」 30名（30名）

今年度は夏期休暇期間中の施設改修工事の影響で、一部の講習において定員を縮小して実施した。各講習とも申込者数は定員を大きく上回ったが、抽選後のキャンセル等の影響で受講者が定員を下回った講習もあった。また、受講者アンケートの結果は文部科学省公表の事後評価平均値を上回る評価であった。

●今後の展望

夏期休暇期間中の施設改修工事の実施及び教職部会の講師配置が次年度は難しいこともあり、必修・選択必修領域の開講を見送ることとなった。しかし音楽実技系の選択領域は、2017年度と同様の規模での開講を計画し、音楽教員の受入れ機関としてのニーズに対応していく。

DAION座ワークショップ&コンサート&レッスン

●要旨

ミュージカル・コース攻卒業生の目標の一つとして、また大阪発信の創作ミュージカル上演を目指し、大阪音楽大学の名を高める事を目的としてDAION座を設立、座員及びパートナー俳優が中心となり、学外団体等からの依頼のある「ワークショップ」や「コンサート」を実施した。合わせて、先に記した大阪発信の創作ミュージカル上演に備え、座員やパートナー俳優の技能向上のためのレッスンを実施している。何れも収支バランスを考慮して事業展開を行っている。

●成果及び達成度

2017年度は滋賀県草津市でのワークショップ、コンサートを中心に事業展開した。また、レッスンは毎月実施しており、現在のメンバーは座員、パートナー俳優に加えて、レッスン生数が延べ12名となっている。事業等の詳細は以下のとおり。

- ・公益財団法人草津市コミュニティ事業団依頼「草津歌劇団3期生養成アートスクール（集中講座）

7月10回、9月4回、10月2回、11月2回、12月4回 合計22回

- ・同事業団依頼「草津クリスマスコンサート」

12月24日 15時開演 草津市立草津クリアホール

- ・レッスン

4月～3月実施

DAION座の事業には一部学生も参画しており、在学生の将来の目標となっていること、またプロとしての演技、指導を座員等のそばで経験できる事は大変貴重で、学生の将来のキャリア形成に役している。また、DAION座の活動は本学への入学希望者の増加につながっている。

●今後の展望

2018年度も滋賀県草津市からアートスクールの依頼を受けており、このワークショップを中心に他の団体、機関等にも働きかけを行い、事業を拡大して展開することを予定している。また、大阪発信の創作ミュージカル上演も視野に入れており、時期は未定であるが機会をとらえて実施を考えている。これらの事業展開を支える点から、次年度レッスン生のオーディションを実施する。本学卒業生を中心に考えるが、広く一般にも募集を行い、ミュージカルに熱意あるレッスン生の獲得を目指す。

Daion100周年記念倶楽部

●要旨

本学の卒業生で、吹奏楽の分野で活躍されている中学・高校の教諭との交流を深めるため、Daion100周年記念倶楽部を学生サロンばうぜ2階で開催した。本学の取り組みについて説明するとともに、本学に対するご意見、要望を聴取した。

●成果及び達成度

本学が取り組んでいる社会への音楽による連携・貢献・発信の新たな可能性を探るとともに、本学の存在意義を社会に発信するための情報収集の場とすることができた。

●今後の展望

今度もDaion100周年記念倶楽部を継続し、本学の卒業生と強固なネットワークを形成しながら、社会との連携を重視した大学運営に結びつけるようにする。

サウンドスクール

●要旨

サウンドスクール事業は、豊中市との包括連携協定に基づき、豊中市教育委員会と連携して「音楽あふれる学校園づくり」をテーマに、2006年から事業を展開している。豊中市立のこども園・小学校・中学校へ、授業支援、出張演奏、クラブ活動支援、伝統音楽の普及といった活動を年間86件（こども園13件、小学校55件、中学校18件）実施し、延べ889名の学生（卒業生・教員・演奏員を含む）を教育現場へ派遣した。

●成果及び達成度

昨年度に引き続き、吹奏楽・合唱の指導や授業支援演奏会など同等の内容で依頼を受け、多くの学生が経験を重ねることができ、小中学生にも好評であった。豊中市内の小学校41校、中学校18校、合計59校のうち、サウンドスクール事業の実施校は39校あり、実施したすべての学校より、教育活動への効果について役立った、次年度も本事業を実施したいとの報告を受けた。

●今後の展望

実施した学校からは肯定的な意見を受けることが多く、このことも未実施校へ伝え、実施校の拡大を図りたい。

とよなか音楽月間

●要旨

豊中市と連携して10月から12月中旬までの期間で様々な形態の演奏会等を開催した。また、今年度竣工した100周年記念館へ豊中市民の方を招待するイベント、「市民開放デー」も音楽月間内に実施した。

●成果及び達成度

豊中市の政策である「音楽あふれる街 とよなか」が、市民はもちろんのこと、市外の方々にも定着しつつある。

●今後の展望

市民のニーズにあった演奏会を企画し、豊中市と本学の連携だからこそできる演奏会等を実施していきたい。

第3回豊中音楽コンクール

●要旨

豊中音楽コンクールは、2015年度から豊中市の主催により、「次代を担う優れた演奏家を発掘・育成し、音楽文化の振興を図ることを目的」として設立されたクラシック音楽コンクールで、本学は共催団体として運営協力し、校内施設で6月17日・18日に予選、7月2日にザ・カレッジ・オペラハウスで本選を開催した。部門は高校と大学・一般があり、それぞれにピアノ、声楽、管弦楽器の各部門を設け（高校の部は管楽器部門と弦楽器部門に分かれる）、定員は各30名、審査員は本学教員と学外の著名な演奏家の方々にも依頼し構成した。

上位入賞者は、その年の秋にザ・カレッジ・オペラハウスで開催する「豊中音楽コンクール 受賞者記念コンサート」に出演することができる。また、高校声楽部門入賞者で条件を満たした者（1名）は、大阪府高等学校音楽教育研究会より「瀧廉太郎記念 全日本高等学校声楽コンクール」の大阪府代表として推薦を受けられる。

●成果及び達成度

他のコンクールに比べ参加料も低料金であるため、多数の応募があった。また、本選では多数の一般来場者があり、華やかな審査会場の中で充実したコンクールとなった。

●今後の展望

同コンクールは、豊中市と大阪音楽大学主催のもと、2018年6月16日・17日に予選、7月1日に本選を開催することが決定している。審査員は学外の著名な演奏家の方々にも依頼することができたため、全国に開かれた音楽コンクールとして発展できるものとする。

ミュージカル公演（市民協働）

●要旨

大学主催行事として年度末にミレニアムホールで開催していた大阪音楽大学短期大学部ミュージカル・コースの試演会を、2014年度第4回公演より豊中市との共催で開催している。2017年度で4回目の共催事業となり、2018年3月10日・11日に、4回（1日2公演）の本公演を開催した。会場は2016年度よりザ・カレッジ・オペラハウスとなっている。

また、「市民開放」の点で、本公演の付随事業として「ミュージカル・ワークショップ」を実施した。受講者は主に豊中市民かつ中高生を対象に定員30名とし、講師はミュージカル・コースの羽鳥三実広教授を中心とした教員らで、公演2ヶ月前より8回の講座を学内施設で開催した。

●成果及び達成度

入場者数は、3月10日 1公演目370名、2公演目412名、3月11日 1公演目354名、2公演目299名（4公演計1,435名）。昨年度は里親に育てられた少女が自身の出生を知ることによって幸せについて考え、高らかに人間賛歌を歌い上げる作品であったが、今年度は「オズの魔法使い」をベースに羽鳥教授が脚本を執筆し、主人公が歩む道の中で、自身とどう向き合っていくかを描いていた。観客には大変好評であった。

チケットは全て「販売」するという羽鳥教授の指導方針により、売上全体の80%以上のチケットを学生自ら販売、自分たちの舞台のチケットを観客に購入してもらうことの大切さも学ぶことのできた公演であった。

ワークショップは、ミュージカルの歴史や豆知識などの話や実技も取り入れた内容で、受講生のアンケートには大変充実したものであったとの感想が多く見られた。

●今後の展望

2018年度も同様に共催として、2019年3月9日・10日にザ・カレッジ・オペラハウスで公演の開催が決定している。これまで、チケットの販売箇所が豊中市役所のみとなっており、市民がチケットを購入できる場所が限定されているが、2018年度は本学でもチケットを販売できる予定のため、さらに多くの方に見ていただく努力をしたい。

Daion吹奏楽フェスティバル2017 ～吹奏楽の饗宴～

●要旨

管打専攻等の卒業生が指導している京阪神地区の有名小学校・中学校・高等学校の吹奏楽部を招待し、ザ・カレッジ・オペラハウスを会場として吹奏楽演奏会を開催した。

●成果及び達成度

招待した出演校の指導者（卒業生）だけでなく、観客として来場する卒業生も対象としたホームカミング的な催事となり、卒業生の本学への帰属意識を高めることができた。

●今後の展望

京阪神地区の中学校・高等学校を対象として演奏会の広報活動を行い、本学入学への契機となるよう工夫したい。

常翔学園との連携協力

●要旨

学校法人常翔学園との連携協力に関する協定に基づき、常翔学園が2017年4月、梅田キャンパス（OITタワー）に開設した常翔ホール（576席）や1階ロビーにおいて、音楽の生演奏の提供を開始した。

梅田の中心地において本学の存在感をアピールできるメリットを活用すると同時に、地元茶屋町との地域連携を進める常翔学園に対し、質の高い音楽を提供することで支援し、今後両法人が良好な関係を保ちつつ連携協力を進めていく先駆けとなるような活動を行っている。

●成果及び達成度

2017年9月14日、共催事業の第1弾として常翔ホールにおいて「常翔学園・大阪音楽大学 連携協定記念プロジェクト 常翔&大音コラボレーション@茶屋町 ビッグバンドライブ 音楽と映像の饗宴」を開催し、492名が来場する盛況となった。本学ジャズ専攻の実力を印象付けるとともに、共催事業として常翔学園の用意した映像とのコラボレーションが実現した。

また、10月より毎月第2土曜日にOITタワー1階ロビーにおいて常翔ロビーコンサートを実施している。本学学生による約1時間の演奏は、毎回好評を得ている。

●今後の展望

2018年度は次の演奏会を常翔ホールで実施する。

- ・10月18日 ストリング・コンサート
- ・11月10日 ホルン・アンサンブル・コンサート
- ・11月16日 邦楽演奏会
- ・2018年2月14日 ジャズ・コンサート

また、OITタワー1階ロビーの常翔ロビーコンサートも毎月1回の開催が決定している。

これらを通じて今後も質の高い音楽を提供し、両法人の発展に寄与したい。

クロード・ドゥラングル サクソフォーン・リサイタル

●要旨

本学客員教授で世界的なサクソフォーン奏者のクロード・ドゥラングル氏のリサイタルと公開レッスンを開催した。

●成果及び達成度

2017年5月19日オペラハウスにて「クロード・ドゥラングル サクソフォーン・リサイタル」を開催した。5月18日にはミレニウムホールにおいて公開レッスンを開催した。リサイタルではプログラムの4曲すべてにおいて、本学のサクソフォーン・オーケストラをバックにドゥラングル氏がソリストを務めた。世界最高レベルの演奏を、本学学生や管楽器を手掛ける中学・高校生、一般市民が聴く機会となった。

●今後の展望

世界的な音楽家による演奏会は、今後も機会があれば開催を検討する。

邦楽特別演奏会

●要旨

邦楽演奏会は例年ミレニウムホールで実施しているが、2017年度は邦楽専攻設置50周年を記念し「邦楽特別演奏会」としてザ・カレッジ・オペラハウスで開催した。

●成果及び達成度

2017年11月17日ザ・カレッジ・オペラハウスにて開催した。古典作品から現代曲までバラエティーに富むプロ

グラムで、638名の入場者を魅了した。在学生、教員、演奏員、卒業生の出演により、本学邦楽専攻・コースの集大成的な演奏会となった。

●今後の展望

2018年度の邦楽演奏会は、梅田の常翔ホールで開催予定である。伝統ある本学邦楽専攻・コースの更なる発展の契機としたい。

【3】オペラハウス事業

本格的なオペラ公演のできるホールとして建設されたザ・カレッジ・オペラハウスは、「新音楽、新歌劇の発生地足らん」という建学の精神に謳われている創立者の大志を実現すべく、これまで多数のオペラ公演を行い、関西、否日本有数のオペラ発生地として、文化庁芸術祭において「芸術祭大賞」を実に3度も受賞したのを始め、モービル音楽賞（現、JXTG音楽賞）の本賞や三菱UFJ信託音楽賞の本賞を受賞するなど、創立者の夢を着々と実現するとともに、社会からも高い評価を得てきた。

本学の創立100周年目に当たる2015年度に、「創立100周年記念オペラ」と銘打って、ヴェルディ唯一の喜劇作品と言っても良いオペラ「ファルスタッフ」を、例年より予算をかけて上演したことや、過年度から創立100周年以降のオペラハウスにおける主催オペラ公演の在り方を見直すという計画が理事会より発表されていたこともあり、2016年度は主催オペラ公演を休止し、2017年度以降の公演計画について検討する年とした。その結果2017年度からは、井原広樹、栗国淳、岩田達宗の3名の客員教授を年替わりで演出に起用し、3年にわたる「ディレクターズチョイス」シリーズとして主催オペラ公演を行うことを、理事会の承認を得て決定した。2017年度には、11月3日、5日の二日にわたって井原広樹演出、牧村邦彦指揮で、モーツァルトの《偽の女庭師》を上演した。

一方オペラハウスは、教育、研究の成果発表の場として、また学校法人として様々な催事の会場として広い用途にも活用されている。例えば、大学主催演奏会として13公演を開催し、7,739名が入場した。また学生の自主公演として開催されている、授業の延長にあるコンサートを10公演開催し、3,137名が入場した。さらにクラシック系の専攻で学ぶ学生は、卒業実技試験の際、この舞台で必ず演奏の機会を持つことになっており、2017年度は29回に及ぶ卒業・修了演奏が実施され、1,800名が入場した。

その他にも、付属音楽幼稚園の公演が2回行われ、あわせて1,456の入場者を得た。またオープンキャンパス、講座やセミナー、入学式、卒業式、共催事業など多岐にわたる事業が実施され、17件で7,299名の入場者があった。その結果、年間催事総数は71件、総入場者数は21,431名、総稼働日数は212日にも及んでいる。

また付属のオペラハウス管弦楽団は、京阪神地域を中心に5件8回の依頼演奏を実施し、特に様々な団体のオペラ公演には欠かせない存在になっている。平成29年度には、文化庁「文化芸術による子供の育成事業（巡回公演事業）」を担い、大分、鹿児島、沖縄の3県で巡回公演事業を実施し、ワークショップや演奏会を各8回開催した。巡回公演の実施は、本学の名を広く九州・沖縄にも知らしめる成果を取めている。

オペラハウス管弦楽団出張演奏

●要旨

外部団体から依頼を受けて、ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団が出張演奏を実施している。

2017年度は次のとおり5公演8回の出張演奏を行った。

- ・9月23日、24日 関西歌劇団「白狐の湯」「赤い陣羽織」
- ・10月8日、9日 みつなかオペラ「外套」「妖精ヴィッリ」
- ・12月16日 いずみホール・オペラ2017「愛の妙薬」

- ・3月10日、11日 兵庫県立芸術文化センター2017年度日本オペラシリーズ「夕鶴」
- ・3月24日 びわ湖ホール声楽アンサンブル第66回定期演奏会「ディドとエネアス」

●成果及び達成度

依頼演奏は大学の広報活動の一端を担っている。また、2016年度から運営体制を一新し、循環型の教育オーケストラとして楽団員の研修も行いながらプロの管弦楽団として活動している。その成果も徐々に表れてきており、一時外部諸団体から演奏の質について心配された点も解消されつつある。

今後もオペラ演奏の質の高さについて、依頼団体から得ている信頼を損なわないように向上に努め、関西のオペラ界に欠かせない存在となるよう努力する。

●今後の展望

昨今の経済状況等により、以前に比べて依頼件数が減少傾向にあるが、オペラ公演等において、演奏の質を一層高めることで、より多くの依頼演奏を受けられるよう努めたい。

文化庁巡回公演事業

●要旨

この事業は、小学校・中学校において一流の文化芸術団体による巡回公演を行い、子供たちに優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、彼らの発想力やコミュニケーション能力の育成を図り、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としている。学校法人大阪音楽大学では、自らが制作団体となり、公演団体をザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団として2010年度から実施し、2017年度は8年目となる。2017年度は、大分、鹿児島、沖縄の3県において、小学校8校（うち1校は中学校と合同）で公演を実施した。

●成果及び達成度

本公演の実施にあたり、事前に公演に関するワークショップを行い、オーケストラの説明や楽器紹介・ミニコンサートなどを実施した。また、児童・生徒との共演の演目の実演指導を行い、本公演に向けて子供たちの関心を高めた。

本公演では、オーケストラの演奏を鑑賞するだけでなく、床から伝わる音の振動など、体育館ならではの臨場感あふれる体験や、プロのオペラ歌手の歌声に触れる機会を設け、指揮者体験コーナーや共演コーナーではオーケストラと子供たちとのコラボレーションも実現した。本学とは縁が薄い地方での巡回公演であったが、結果的に本学の名を遠く九州、沖縄にも知らしめる成果も得ることができた。

●今後の展望

2018年度は、岡山、広島、山口、島根、鳥取の5県において、12公演の実施が採択されており、5月からワークショップの実施を予定している。いずれも近畿から離れた地での公演であるが、本学の名を日本全国に広める一助となるよう努力する。

オペラハウス合唱団出張演奏

●要旨

外部団体等から依頼を受けて、ザ・カレッジ・オペラハウス合唱団が出張演奏を実施しているが、2017年度は、次の2公演の依頼を受けた。

- ・12月16日 いずみホールオペラ 2017「愛の妙薬」
- ・12月31日 久石譲ジルベスターコンサート 2017

●成果及び達成度

いづみホールオペラは、オペラハウス管弦楽団とともに依頼を受け、公演の成功に貢献した。

●今後の展望

昨今の経済状況等により、以前に比べて依頼公演数が減少傾向にあるが、どのような種類の依頼公演であっても、オペラハウス専属の合唱団としての演奏の実力を示すことで、より多くの依頼演奏を受けることができるよう努めたい。

オペラ公演

●要旨

制作者と演出家が綿密に協議して演目を決定し、限られた予算の中で最高のものを追求する「ディレクターズチョイス」シリーズの第1弾として、モーツァルトの青年期の傑作「偽の女庭師」を上演した。

●成果及び達成度

演出の井原広樹客員教授は、当該オペラのわが国での演奏頻度の低さから、その演出についても全く手つかずの真っ白な状態であるということを手にとり、各キャストに明確なキャラクターを積極的に付与して縦横に動かすことによって、この作品のブッファとしての面白さを見事に引き出すことに成功した。井原客員教授はオーケストラをピットに入れるのではなく、舞台の真ん中に置き、その周りに舞台を設営することによってキャストが縦横に動き回る、非常にダイナミックな演出を試みた。大阪音楽大学の教員や卒業生などからなる歌手陣は、高い歌唱力とともに、その達者な芸の力を最善に発揮して、意外に複雑な人間関係や、ややこしい筋立てを持つこのオペラから、だれにも分かり易い素晴らしいブッファの世界を作り上げた。11月30日付の朝日新聞紙上、モーストリー・クラシック 2018年1月号、音楽の友 2018年2月号でも、その上演の意義や素晴らしさを高く評価する記事が掲載された。

●今後の展望

ザ・カレッジ・オペラハウスは、これまでもなかなか上演されにくい20世紀オペラなど、興行的には極めて厳しい条件下にあるものを多数上演し、高い評価を得てきたが、いつも集客には非常に苦労してきた。今回もモーツァルトの作品とはいえ、ほとんど知られていない作品（今回がおそらく関西初演）だけに集客には苦労し、初日（11月3日）の集客率が84.1%、二日目（11月5日）が70.6%に終わった。今後は、こうした知名度の少ない作品を上演するうえで、どのように一般に周知していくかにさらなる研究を重ね、一人でも多くの音楽ファンに分かり易くアナウンスをし、隠れた名作の紹介に努めていきたい。

●公的助成・民間助成

本公演実施にあたり、次の団体より助成金を頂いた。

- ・公益財団法人 アサヒグループ芸術文化財団
- ・公益財団法人 ロームミュージックファンデーション
- ・公益財団法人 三菱UFJ信託芸術文化財団
- ・公益財団法人 朝日新聞文化財団

【4】付属音楽院

2017年度の音楽院教養講座については顧客管理システム導入後、受講者数は一時減少傾向だったものの新規講座の立ち上げ、申し込みの際における受講生ケアを続け、2015年度の最大受講者数と同水準までに数を戻した。

マンツーマンレッスンに関しては月平均7名の申込者を獲得し過去最大の受講者数となった。これはホームページを中心とした広報戦略が功を奏したと考えるが、細かな面で表記の統一、講師一覧の体裁、全体的な見易さなどの改善が必要である。

7月にはサテライト事業「さくら夙川校」の運営がスタートした。本校（庄内）では獲得できていなかった西宮以西の受講者の獲得に成功したが、当初掲げていた目標値を達成することはできなかった。原因としてはさくら夙川校の周知徹底が至らなかったためと考える。しかし、受講者の新規開拓、本学のPR、サテライト教室の開設により顧客需要の新たな発見ができたことに確かな手応えを感じた。

新体制の進学コースは、入学祝い金制度、音楽院賞などの特典を取り入れ、在籍者数が計24名となった。2018年4月には本学に13名が入学した。2018年度は各学年10名、計30名を目標として広報に一層力をいれ、ミュージッククリエイション専攻、ミュージックコミュニケーション専攻にも適したカリキュラムへの見直しが必要である。

音楽院のイベント事業、特別講座は広報的役割に重きをおいているが十分な手応えを感じていない。2018年度は、いかに効果的に新規顧客を開拓していくかが課題である。その一方で顧客満足度を高めるため、受講継続者のケアも必要と考える。

こども音楽講座の会員数拡充・定着率向上のためのキャンペーン実施

●要旨

次の催事を開催した。

- ・こども音楽講座無料体験（4月15日実施）
- ・「0歳からのファミリーコンサート」（8月26日実施）
- ・3月に中学生以下の受講者の発表会ミュージックカーニバルを3日間に分けて実施

●成果及び達成度

〔こども音楽講座無料体験〕

例年4月に実施していた無料体験は好評であるが、キッズレッスンの新規獲得にはつながっていなかった。2017年度は年間を通してキッズレッスンの無料体験を実施した結果、新規の受講生を獲得できた。

〔0歳からのファミリーコンサート〕

未就学児が入場できるコンサートの需要は高い。対象とされる年齢層は直ちに音楽院の受講にはつながらないが、音楽院の周知として十分に効果が期待できるため今後も実施する。

〔ミュージックカーニバル（発表会）〕

会員サービスの向上とともに、舞台経験を体験させることにより、継続受講へのモチベーション向上につながった。

●今後の展望

2018年度のこども音楽講座の無料体験は、講座のみの実施とする。また、これまでの実績を踏まえて、「0歳からのファミリーコンサート」ならびに「ミュージックカーニバル」（発表会）を実施する予定ではあるが、新規顧客獲得、継続のための仕組み作りなどを再検討し顧客満足度の向上に努めたい。

今後もこどもの音楽教育に重点を置いて、体験講座・新規講座の広報を行っていく。

音楽院進学コース充実、改革のための事業

●要旨

次の事業を実施した。

- ・シブリアン・カツァリス マスタークラス（5月20日、5月21日実施）
- ・Daion Piano Grade（11月19日、2月18日実施）
- ・進学コース特典（入学祝い金、音楽院賞の贈呈）

●成果及び達成度

[シブリアン・カツァリス マスタークラス]

本学客員教授ピアニストのシブリアン・カツァリス氏を迎え、2日間で12名の受講者が集まった。受講生、聴講生ともに満足度の高い内容となり、進学コース、大学のPRができた。

[Daion Piano Grade]

ピアノ部会主導で動きだしたグレードテストは本学教員が審査員となり実施した。全2回で11名が受験。受験生にとっては満足度の高い内容となったが、グレードの周知、グレード取得による特典など今後の課題は残った。

[入学お祝い金、音楽院賞]

2017年度は全学年で24名の受講生が在籍し、本学に13名（内1名は入学お祝い金対象外）が入学した。進学コースの特典を活用し入学前にしっかり勉強しておこうという受講生が増加し、進学後の学習意欲向上にもつながっていると考える。

●今後の展望

2018年度も引き続き、進学コースのリニューアルを進めるとともに、一人ひとりの「進学コース」の受講検討者について、入試制度を含めた適切できめ細かい個別対応を心がける。入試事務部門とこれまで以上に連携を深め、情報交換や新規の取り組みの相談を密に行う。また音楽院が提携している2つの音楽教室とも連携を深め、さらなる受講者確保に努めたい。現進学コースはミュージッククリエーション、ミュージックコミュニケーション専攻に適したカリキュラムとなっておらず、両専攻にも対応したカリキュラムへの見直しが必要と考える。Daion Piano Gradeについてはピアノ部会とも連携しさらなる受験者拡大に努めたい。

教養講座会員数拡充・定着率向上のための事業

●要旨

- ・LINEスタンプを活用した練習室利用
- ・社会人のための実力診断（声楽）（7月31日実施）

●成果及び達成度

[LINEスタンプ]

練習室利用でスタンプをためると利用料が1回無料になる新たな試みは功を奏し、利用率は大幅に上昇した。

[実力診断]

音楽院の中でも声楽系の受講生は多く、大人（社会人）を対象とした実力診断を実施した。音楽院会員だけにとどまらず、広範囲な申込者が集まった。

●今後の展望

2018年度マンツーマンレッスンにおいては紹介した方、紹介された方にも1レッスンが無料となる紹介制度や無料体験制度を取り入れ、受講希望者のレッスンにおける不安を取り除き本受講へつなげる。また練習する場所がないといった卒業生のケアなども考え、「練習室会員」制度を設ける。実力診断は、申込者がミレニアムホールで歌い、大学教員からアドバイスを受けられる貴重な機会であり、今後も継続する。また、社会人入試につなげる可能性を模索する。

外部施設を活用した事業

●要旨

西宮のさくら夙川に音楽院の分校、さくら夙川校を7月15日に開校した。レッスン室3部屋にサロンを併設、キッズスペースや授乳室、おむつ交換台など、小さなお子様を持つ方でも気軽に受講できる環境を整えた。

●成果及び達成度

受講生はのべ38名になったがまだまだ目標値には達していない。

〔0歳からのファミリーコンサート〕

全2回実施し、いずれも300席が完売となった。西宮での需要は非常に高く、さくら夙川校の広報としては十分に効果を発揮した。

〔出張コンサート〕

西宮市と協力して実施した貝類館コンサート、幼稚園などへの出張演奏は、お子様の心を掴み、教育的観点からも非常に満足いただける結果となった。

〔リトミック講座〕

0歳～3歳までを対象とした1回完結のリトミックレッスンは案内情報の発信とともに満席になるほど好評であった。音楽が幼少期のこどもに与える影響についての保護者の理解と関心がこの結果につながったと考える。

〔サロンコンサート〕

1月～3月までで計6回実施をしたが、宣伝不足もあり、ほとんどが招待客となった。コンサートにおけるコンセプト、広報展開を考え直し新年度にのぞみたい。

●今後の展望

さらなる新規受講生（入学希望者）の獲得、文化（音楽）事業の周知と底上げ、さらには西宮市文化振興課との協力関係を築きながら、さくら夙川校のみで採算が取れる受講生数の獲得を目指す。入試事務部門、広報統括事務室とも連携し、大学のPRも含めた広報展開をさらに強化する。

C 法人組織運営事業

【1】広報活動

2017年度は、本学の取組みを効果的に情報発信し、本学に対する興味喚起や理解を深めてもらうため、インターネットを活用した広報展開の強化を図った。

ホームページについては、情報発信力強化を目的に全面リニューアルの検討を実施、新たなコンテンツ管理システムの導入を決定し、2018年度初頭からの稼働に向けて移行作業を実施した。

また、学生の活気ある姿を視覚で伝えるため、動画を活用した情報発信も強化した。

ホームページやSNSで掲載する学生の演奏会の動画本数を増やしたほか、利用者が増加している写真・動画投稿アプリInstagramも活用度を高めた。

広告においてもスマートフォンを活用する高校生をターゲットとしたWeb広告の出稿量を増加した。これらのインターネットを活用した広報展開の他、広報誌・リーフレットなどの冊子、広報的イベント出演、マスメディアへの掲出など各種媒体・機会を活用し、ブランド力強化、認知度・イメージ向上を図った。

「大学ブランド力」強化を目的とした広報活動

●要旨

本学及び専攻・コースの認知度及びイメージ向上を図る広報活動を通じ、本学の建学の精神、教育理念を社会に対し発信し、本学の存在価値を高めブランド力強化に結び付ける。

●成果及び達成度

様々な広報媒体・機会を通じ、本学の取組みや在学生の学生生活の充実、教員の魅力を社会に発信した。特に、学生の学修状況の充実や教員の魅力を視覚的に伝えるため、動画を積極的に活用した。

授業延長上の演奏会や教員による演奏会などのダイジェスト動画を制作、Youtube経由でホームページやSNS

に掲載する本数を増加させた。

大学広報を目的とした集客力のある施設やイベントでの学生出演も引き続き取り組んだ。ターミナル駅やプロスポーツ会場に加え、キッザニアの特別プログラムや大阪市・光の饗宴、FMラジオ公開収録など、広報的価値の高い新たな出演もあった。

これらは映像や写真が事前の告知や出演映像がインターネット上に掲載されることもあり、広報的価値の高い取り組みとなった。

●今後の展望

様々な機会や媒体を活用し、本学の取り組み、学生生活の充実、教員の魅力を社会に発信し、本学のブランド力強化を図り、入試広報へ好影響をもたらしていくものとする。

【2】施設・設備

施設設備充実のため、主に①新校舎への機能移転に伴う整備、②既存施設のリニューアル工事③附属音楽幼稚園関連工事④コンピュータ関連システムの更新の4件を行った。

①C号館と旧K号館から新校舎（100周年記念館）へ機能移転が完了し、2017年4月に旧K号館及び名神口校地を売却した。その後、2017年6月からC号館の解体工事を行い2017年12月に跡地整備を完了させた。

②授業教室を確保するため、M号館を改築し、音楽院事務室を移転させ、旧音楽院事務室とA302教室を改修し、ミュージッククリエーション専攻の専用教室を整備した。その他、施設設備の維持管理のため、E号館内にある受変電設備の屋外移設更新工事、F号館の外壁塗装、屋上防水、空調機器更新工事、学生サロン「ぼうぜ」2階の空調機器更新工事等を行った。

③幼稚園の教育環境充実のため、屋外手洗い場で温水が使用できるよう改修工事を行った。

④PC教室（F212・F213教室）、GAKUEN・ポータルシステム、Desk Net'sの更新と、無線LAN工事により教育環境の整備を行った。

新校舎への機能移転

●要旨

旧K号館（名神口校舎）及びC号館の代替校舎となる新K号館（100周年記念館）が2017年4月開館し、機能移転作業が完了したので、旧K号館と名神口校地の売却、及びC号館の解体と跡地整備を行った。

●成果及び達成度

C号館解体については、6月より什器類の処分とアスベスト塗料の安全剥離処理を行った後、建物解体作業に移り、建物撤去後に杭抜き作業と整地を経て跡地に芝を植え、12月末に工事を完了させた。その後、豊中市より寄贈を受けた高さ4mの生垣樹木20本の植樹と、本学後援会より寄贈を受けた照明を設置した。

旧K号館・名神口校地については、什器類を処分し、4月末に建物・土地を売却した。

●今後の展望

C号館解体跡地を整備し、今後のキャンパス再編に伴う校舎建設スペースを確保した。

●公的助成・民間助成

C号館解体工事費に対して、文部科学省の私立学校施設整備費補助金約3千5百万円を獲得した。

既存施設のリニューアル工事

●要旨

2019年度に完成年度を迎えるミュージッククリエーション専攻の授業教室を確保するため、音楽院事務室と

A302教室の改修工事を行った。M号館を2階建てに改築し、音楽院事務室を2017年8月に移転した。また、E号館内に設置している高圧受変電設備を更新し、屋外に移設する工事を行った。

●成果及び達成度

M号館を2階建てに改築し、1階に音楽院事務室を移転させたことで、音楽院事務室としての利便性を向上させることができ、また旧音楽院事務室をミュージッククリエーション専攻の教室に充てることで授業教室を確保することができた。旧音楽院事務室とA302教室の改修工事については、防音設備を施した改修や授業スタイルに合わせた改修工事を行うことで、教育環境の充実を図ることができた。また、老朽化した高圧受変電設備の更新、屋外への移設を完了させた。

●今後の展望

ミュージッククリエーション専攻に限らず、教育環境の充実を図ることで在学生の満足度を向上させ、受験生確保につなげる。また、老朽化した施設設備の更新、改修を順次行い、施設設備の維持管理に努めていく。

既存システムの更新

●要旨

使用年数が経過し老朽化したPC教室（F212・F213教室）、GAKUEN・ポータルシステム、Desk Net'sを継続利用するため更新した。

●成果及び達成度

OA教室は最新機器・OS・ソフトウェアに更新するとともに2017年度開講されたミュージックコミュニケーション専攻の授業科目「音楽情報発信A・B」に対応するため環境を整備した。

GAKUEN・ポータルシステムはバージョンアップにより機能強化と最新のOS・ブラウザで接続することができるようになり利用者の利便性を向上させた。

Desk Net'sはクラウド環境へ移行することにより学外からスケジュール等の閲覧が可能となった。またバージョンアップによる帳票出力等の機能強化により事務効率を向上させた。

●今後の展望

使用年数が経過し老朽化した学内LANサーバ・ネットワーク機器を継続利用できるよう更新する。また、GAKUENシステムに時間割編成とWeb出願システム連携機能を追加し事務効率化と経費削減につなげる。

職員能力開発研修の実施

●要旨

職員能力の開発を目的に日本能率協会（JMA）等が主催する研修会に参加する。資格取得支援制度についてはスタッフからの申請を事務局会議で精査し、適宜、支援を行う。

●成果及び達成度

日本能率協会が主催するJMA大学SDフォーラムのセミナーに専任・専任嘱託事務職員51名が参加した。

資格取得支援制度については、応用情報技術者試験受験のための申請が専任事務職員から1件あり、受験料・参考図書費用を助成した。試験結果は合格であった。

●今後の展望

SD研修については他機関が行っている研修の情報を収集し新たな展開を検討する。資格取得支援制度については申請者を増やすため制度の周知を行う。

【3】法人の運営

2017年度は、2016年10月末に竣工した「100周年記念館」が各教室への機器等の設置を終え、本格稼働した年度であった。新館には付属図書館と楽器資料館からなる音楽メディアセンターのほか、パイプオルガン・ジャズ・電子オルガン・ポピュラー・オペラ・ミュージカル・ダンスのレッスン室や演習室、録音スタジオ、体育館並びに練習室を配置した。一方で、既存の校舎等については老朽化の対策工事を実施した。C号館の解体工事とF号館の屋上防水・外壁・空調機器を夏期に改修した。その他の老朽化対策工事は今後2年内に実施予定である。また、正門前のM号館を2階建てに建て替え、音楽院事務室、本学同窓会《幸楽会》事務室、ヤマハ売店を配置した。ミュージッククリエーション専攻の学生数に対応するため、A号館3階の教室・レッスン室等を専用の教室に改修した。付属音楽院のさくら夙川校の開校に伴い、教室の仕様に改修工事を実施した。なお、「100周年記念館」のオープンに伴い、名神口校地（豊中市名神口1-4-1）は校舎とともに2017年4月末に売却した。

今年度は2017年度と2018年度の新入生数を大学210名及び短大110名を目標値とする「緊急3カ年アクションプラン」の最終年にあたるが、残念ながら目標達成とはならなかった。しかしながら、151名まで落ち込んだ2015年度の大学新入生数は、アクションプラン実施の効果もあって、2016年度は192名、2017年度は203名、2018年度は194名まで回復した。また、短大は各年度110名超を維持した。なお、短大のダンスパフォーマンス・コースは近年の志願者の動向を踏まえて2019年度に募集停止し、廃止を決定した。

武藤好男学長の任期満了に伴う学長選挙が新学長選挙規程に基づいて行われ、本山秀毅教授が新学長に選出された。2017年11月27日開催の2017年度第3回理事会にて、学長任用規程に基づき次期学長の任命を決定した。

教員の資質や業績を評価することによって教育力や研究力、大学運営能力を高めることを趣旨とし、意欲的に貢献している教員を評価し、本学の更なる発展につなげることを目的に専任教員の評価制度を導入することを決定し、2018年度トライアルを経て、2019年度より本格的に実施することになる。

本法人の将来のあるべき姿、具体像を検討、議論する「将来構想実現検討・諮問委員会」を理事長直轄の組織として設置した。短期大学の再編及び一部短大コース、大学専攻の改編を検討していくこととなる。

今年度は理事会を5回、評議員会を3回開催した。理事会において決定した学校法人の業務並びに理事長の職務を円滑に遂行するために、常任理事会を21回開催し、延べ130件の議題を審議した。各役職者の意思疎通と連絡調整を目的とする執行部連絡協議会を4回開催した。

今年度の教職員数は554名、内専任教員は64名（大学・短大51名、付属音楽幼稚園教諭13名）、専任職員68名。この内年度中の退職者は47名（専任教員2名、専任教諭1名、専任職員7名、非常勤教員19名、その他18名）であった。

学長選挙

●要旨

任期満了に伴う学長選挙を実施した。2017年9月26日に公示を行った。10月9日～14日に推薦投票を実施し、5名の推薦候補者が選出された。11月13日に推薦候補者公開面談を開催し、本選挙候補者選考委員会の審議の結果、2名の本選挙候補者を決定した。11月27日に本選挙を実施し、同日、開催した理事会において本山秀毅教授の学長新任が決定した。

【4】財政

アクションプラン

●要旨

2017年度以降、各年度において、大学入学者数210名、短期大学部110名の目標を設定し、その達成のための実

行具体策をアクションプランとして各部会、各事務部門がそれぞれ作成し、2016年度から2018年度まで3ヵ年度実行した。

●成果及び達成度

2019年度の入学人数は大学194名、短期大学部121名と、短期大学部は目標数値を上回ったものの、大学入学人数は、目標を下回る結果となった。

●今後の展望

アクションプランは2018年度で収束するが、入学定員（大学210名・短大110名）の確保に向けた各部会、各事務部門の取り組みは2019年度以降も継続される。3ヵ年度をかけたアクションプランの達成・未達成の要因を分析し、今後の法人運営に役立てていくよう対応したい。

III 財務の概要

別紙をご参照ください。

▼2017年度 法人の動き

日付	内容	場所
<A. 教育・研究事業>		
2017年4月1日	入学式(大学短大合同)	ザ・カレッジ・オペラハウス
4月1日	キャリア支援(進路・就職)に関する新入生保護者対象ガイダンス	ザ・カレッジ・オペラハウス
4月5日	音楽幼稚園 第50回入園式	音楽幼稚園
4月7日	豊能地区教員採用試験説明会[他、12/8]	A305教室・B207教室
4月11日	カワイ音楽教室講師採用説明会[他、11/2]	B207教室
4月14日	堺市教員採用試験説明会[他、12/14]	B207教室
4月14日	名刺作成講座[他、4/19、5/23、6/21、7/14、9/27、10/24、11/16、12/20]	キャリア支援センター
4月19日	大阪市教員採用試験説明会	A305教室
4月20日	神戸市教員採用試験説明会	B206教室
4月21日	教職STUDY! [他、4/24、6/22、7/19、24、10/26、30、12/14、18、2/15、19、22、26]	H202教室・D204教室 他
4月24日	教授会①	会議室
4月25日	MIRAIカフェ[他、5/18、6/19、7/6、10/4、11/17]	キャリア支援センター
4月26日	コナミグループ採用説明会	B102教室
4月28日	堺市消防音楽隊採用説明会	O103教室
5月1日	和歌山県教員採用試験説明会	A305教室
5月10日	TOEIC講座[他、5/17、24、31、6/7、14、21、28、7/5、12]	B102教室
5月10日	神戸市消防音楽隊採用説明会	O103教室
5月12日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー「自己PR作成セミナー」[他、10/19]	B207教室・B101教室
5月13日	呉信一客員教授 金管楽器特別講義	O101教室
5月17日	ヤマハ大人の音楽レッスンセミナー(コラボレートスタディ授業内)[他、11/15]	K507教室
5月19日	ヤマハ大人の音楽レッスン講師採用説明会[他、10/30]	O103教室・O104教室
5月19日	クロード・ドゥラングル サクソフォーン リサイタル	ザ・カレッジ・オペラハウス
5月22日	教授会②	会議室
5月29日	小竹真樹氏 トランペット特別講義	O201教室
6月2日	三橋貴風客員教授 邦楽特別講義	F106教室
6月6日	ヤマハ音楽ピアノ演奏グレード5級取得準備講座 [他、6/13、20、27]	B205教室
6月8日	深井碩章氏 ヴィオラ特別講義	O201教室
6月12日	バジル・クリツァー氏 トロンボーン特別講義	O101教室
6月12日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー「Web模擬テスト受験会」	F212教室
6月15日	田野智子氏 ミュージックコミュニケーション特別講義	D101教室
6月21日	大阪府警察音楽隊採用説明(吹奏楽授業内)	O101教室・O201教室
6月26日	教授会③	会議室
6月29日	ヤマハ音楽教室システム講師採用説明会[他、1/10]	A414教室・A305教室
7月1日	たなかかつこ氏・安川大樹氏・Gene Jackson氏 ジャズトリオ特別講義	K404教室
7月3日	特別MIRAIセミナー「リトミック」	B207教室
7月4日	ヤマハ音楽指導グレード5級トライアル講座	B205教室
7月4日	大音専任事務職員志望者対象面接講座	会議室D
7月7日	菊原光治客員教授 邦楽特別講義	F106教室
7月11日	海上自衛隊音楽隊採用説明会	O201教室
7月12日	陸上自衛隊中部方面音楽隊採用説明会(授業内・教務担当)	O101教室 他
7月14日	漆原朝子特任教授 弦楽器特別講義 (他7/14、7/20、9/25、9/26、11/14、11/21、12/8、12/15、12/21)	O105教室 他
7月17日	呉信一客員教授 トロンボーン特別講義	O101教室
7月18日	AndVision音楽留学説明会[他、2/13]	B101教室
7月19日	ヤマハ吹奏楽団採用説明会	O103教室
7月21日	TOEIC IPテスト実施	B102教室
7月22日	音楽幼稚園 夏まつり	音楽幼稚園
7月24日	教授会④	会議室
7月26日	ヨズア・バルチュ氏 声楽特別講義	K603教室
8月3日	AICE関連「夏休みワークショップ(企業の仕事を知らう)」[他、8/8・24・9/7]	A305教室 他
9月14日	カワイピアノグレード6級学内認定・特別講習	F109教室
9月20日	坂田直樹氏 作曲特別講義	A414
9月25日	教授会⑤	会議室
9月29日	【企業就職希望者対象】「how-to 就職セミナー」	F112教室
10月3日	ヤマハ音楽指導グレード5級取得準備講座 [他 10/10、24、31、11/7、14、21]	B205教室
10月5日	アミチ・ムジケ合唱団 管弦楽・合唱特別講義	ザ・カレッジ・オペラハウス
10月5日	音楽教室how-toセミナー	B207教室

▼2017年度 法人の動き

日付	内容	場所
10月6日	大学3年生・短大1年生対象 卒業後の進路・就職ガイダンス[他、10/11]	F434教室・ミレニアムホール
10月7日	呉信一客員教授 金管楽器特別講義	O101教室
10月8日	音楽幼稚園 第51回運動会	音楽幼稚園
10月20日	カイオ・バガノ氏 ピアノ特別講義	F434教室
10月23日	教授会⑥	会議室
11月1日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー「業界研究」	B206教室
11月11日	フローラン・エオー氏 クラリネット特別講義	O202教室
11月11日	キャリア支援(進路・就職)に関する保護者対象説明会(全学生保護者対象)	ミレニアムホール
11月11日	キャリア支援(進路・就職)に関する個別相談(午前・午後)	会議室A・B・C・D・学務応接B
11月13日	松原友氏 声楽特別講義	A303教室
11月13日	新田幹男氏 トロンボーン特別講義	O101教室
11月14日	三橋貴風客員教授 邦楽特別講義	D204教室
11月15日	ウード音楽事務所業界・企業説明会(コミュニケーション)授業内)	D101教室
11月16日	赤松林太郎氏 ピアノ特別講義	ミレニアムホール
11月18日	フィリップ・ベルノルド氏 フルート特別講義	O202教室
11月27日	教授会⑦	会議室
11月29日	豊中市講師登録説明会	キャリア支援センター
11月30日	三木楽器音楽教室講師採用説明会	B207教室
12月2日	音楽幼稚園 作品展「キッズミュージアム」	音楽幼稚園
12月4日	教員採用試験対策・Web講座受講相談会	キャリア支援センター
12月6日	大阪音楽大学 第60回 定期演奏会	ザ・シンフォニーホール
12月7日	松尾浩客員教授 声楽特別講義	A414教室
12月7日	パトリック・ジグマノフスキー客員教授 ピアノ特別講義	A423教室
12月7日	ヤマハ大人の音楽レッスン講師採用説明会(専門合奏・弦 授業内)	O104教室
12月8日	デルフィーヌ・ヴォランジュ氏 パトリック・ジグマノフスキー客員教授 シャンソン特別講義	ミレニアムホール
12月11日	ミーハ・ロギーナ氏 サクソフォーン特別講義(～12/22)	O101教室 他
12月16日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー「履歴書・ES対策」	B206教室
12月18日	教授会⑧	会議室
12月19日	ユーエスジェイエンターテインメント部門業界・採用説明会	B103教室
1月15日	呉信一客員教授 トロンボーン特別講義	O101教室
1月16日	劇団四季スタッフ採用説明会	B102教室
1月17日	ジャン・フッサール氏 作曲特別講義	P107教室
1月19日	アパレル業界希望者対象就職相談会	キャリア支援センター
1月27日	大阪音楽大学短期大学部ポピュラー・コース・コンサート	サンケイホールブリーゼ
1月29日	教授会⑨	会議室
1月30日	エリック・スペラー氏 オーボエ特別講義	O201教室
2月8日	就活・履歴書用証明写真撮影会	ばうぜ特別室
2月8日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー「面接講座」	F215教室
2月13日	フォルテピアノ・ワークショップ①	楽器資料館
2月14日	フォルテピアノ・ワークショップ②	楽器資料館
2月15日	SPI性格検査受験会	F212教室
2月15日	就活メイク講座(女子学生限定)	F215教室
2月17日	第29回 大阪音楽大学学生オペラ「コジ・ファン・トゥッテ」[他 2/18]	ザ・カレッジ・オペラハウス
2月20日	ヨズア・バルチュ氏 声楽特別講義	K603教室
2月24日	音楽幼稚園 発表会「たのしみショー」	ザ・カレッジ・オペラハウス
2月26日	教授会⑩	会議室
2月27日	面接対策講座(応用編)	会議室D
3月4日	大阪音楽大学 第49回 吹奏楽演奏会	ザ・シンフォニーホール
3月5日	ヤン・ヴァンデルロースト氏 作曲特別講義	F215教室
3月7日	教員採用試験対策・春休み集中勉強会(模擬授業・集団面接・集団討論) [他、3/15]	D103教室
3月13日	大阪音楽大学短期大学部 2017年度卒業演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
3月14日	兵庫県警察音楽隊採用リクレーター相談会	キャリア支援センター
3月14日	大阪音楽大学 2017年度卒業演奏会 [他 3/15]	ザ・カレッジ・オペラハウス
3月19日	教授会⑪	会議室
3月19日	音楽幼稚園 第51回卒園式	音楽幼稚園
3月23日	卒業式(大学短大合同)	ザ・カレッジ・オペラハウス
7月21日	大阪音楽大学管弦楽団サマー・コンサート2017	ザ・カレッジ・オペラハウス
11月17日	邦楽特別演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス

▼2017年度 法人の動き

日付	内容	場所
<B. 社会連携活動事業>		
6月17日	豊中音楽コンクール 予選 [他6/18 本選 7/2]	ミレニアムホール、0号館 本選: ザ・カレッジ・オペラハウス 常翔ホール
9月14日	常翔&大音 コラボレーション@茶屋町 ビッグバンド・ライブ	高槻市立生涯学習センター
9月22日	けやきの森市民大学秋季講座「音楽の宝石箱」[他 10/20、11/17、12/15]	ザ・カレッジ・オペラハウス
10月1日	第7回 豊中子ども音楽フェスティバル	ザ・カレッジ・オペラハウス
10月22日	第3回 豊中音楽コンクール受賞者記念コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
11月3日	第53回オペラ公演「偽の女庭師」[他 11/5]	ザ・カレッジ・オペラハウス
11月12日	DAION吹奏楽フェスティバル2017 吹奏楽の饗宴	ザ・カレッジ・オペラハウス
3月10日	大阪音楽大学短期大学部ミュージカル・コース 第7回公演[他 3/11]	ザ・カレッジ・オペラハウス
4月15日	春の無料体験	ミレニアムホール 他
4月22日	音楽院ぱうぜランタイムコンサート[他 5/13、6/3、7/1、22、9/9、30、10/21、11/18、12/2、16、1/13、2/10、3/10]	学生サロンぱうぜ2階
5月9日	オペラ物知り講座[他 7/18、10/31、1/16]	ミレニアムホール
5月11日	一般社会人のためのオペラ講座[他 5/25、6/1、6/15、6/22]	F434 他
5月13日	音楽院特別講座[他 6/3、7/1、9/9、9/30、10/21、12/2、1/13、2/10]	B101 他
6月4日	吹奏楽フェスティバル	大阪音楽大学
6月11日	小学生のための実力診断	ミレニアムホール
6月11日	無料体験レッスン「トライアルレッスン」	大阪音楽大学
6月24日	日下部吉彦 第64回レクチャーコンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
7月9日	ピアノの実力診断	ミレニアムホール
7月9日	ピアノ指導者対象セミナー「ピアノ×未来」	大阪音楽大学
7月15日	教員免許状更新講習(必修・選択必須・合唱・打楽器・雅楽・指揮法・リコーダー・日本伝統音楽)[他、7/22、8/4、5、7、8、21、28]	ミレニアムホール・F215教室 他
7月23日	オープンキャンパス	大阪音楽大学
7月30日	大人・社会人のための実力診断(声楽)	ミレニアムホール
7月30日	受験講習会(夏期)(~8/1)	大阪音楽大学
8月2日	音楽基礎科目認定テスト	大阪音楽大学
8月26日	0歳からのファミリーコンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
9月2日	進学コース 前期公開実技試験 兼 特別推薦認定審査	ミレニアムホール
9月3日	2018年度同窓会特別推薦実技認定審査・教員特別推薦実技認定審査	大阪音楽大学
9月13日	2018年度大学3年次編入推薦・短大専攻科特別入試	大阪音楽大学
9月24日	大学・短大進学実技認定テスト	大阪音楽大学
9月30日	2018年度大学院入試前期日程(~10/1)	大阪音楽大学
10月7日	大阪音楽大学 市民開放デー「パイプオルガン・コンサート」~ミュージアム・トークとともに~	パイプオルガン演奏室、楽器資料館
10月9日	オープンキャンパス	大阪音楽大学
10月28日	文化庁助成 連携講座「音楽を再生する道具とその変遷」	楽器資料館、パイプオルガン演奏室
10月29日	無料体験レッスン「トライアルレッスン」	大阪音楽大学
11月22日	2018年度大学・短大推薦入学試験(~11/24)	大阪音楽大学
12月3日	無料体験レッスン「トライアルレッスン」	大阪音楽大学
12月3日	管楽器アンサンブルクリニック	大阪音楽大学
12月24日	受験講習会(冬期)(~12/26)	大阪音楽大学
12月27日	音楽基礎科目認定テスト	大阪音楽大学
1月14日	ピアノの実力診断	ミレニアムホール
2月4日	2018年度大学・短大一般入学試験A日程(~2/7)	大阪音楽大学
2月11日	実力診断優秀者による優秀者コンサート	ミレニアムホール
2月17日	音楽院 合同発表会[他 2/18、2/25、3/4]	ミレニアムホール
2月21日	2018年度短大専攻科・大学3年次編入一般入試(~2/23)	大阪音楽大学
2月26日	2018年度大学音楽専攻科入試	大阪音楽大学
3月9日	2018年度大学院入試後期日程(~3/10)	大阪音楽大学
3月11日	ピアノアンサンブルコンサート	ミレニアムホール
3月17日	ミュージックカーニバル[他 3/18、3/21]	ミレニアムホール
3月17日	音楽基礎科目認定テスト	大阪音楽大学
3月19日	2018年度大学・短大一般入学試験B日程	大阪音楽大学
3月24日	進学コース 後期公開実技試験	ミレニアムホール
3月25日	進学コース 修了コンサート	ミレニアムホール
3月25日	オープンキャンパス・無料体験レッスン「トライアルレッスン」	大阪音楽大学

▼2017年度 法人の動き

日付	内容	場所
<C. 法人組織運営事業>		
2017年4月1日	音楽メディアセンター・楽器資料館開館	
4月15日	広報誌「MUSE」241号発行 [以降、242号7/15、243号10/15、244号1/15発行]	
4月27日	名神口校地売却	
5月8日	M号館建て替え工事着工	
5月29日	第1回理事会 〔決議事項〕2016年度事業報告 2016年度決算報告 短期事業計画案(2017~20年度) 〔報告事項〕2017年度入学試験結果 法人運営規模等の推移(2008~2017年度)	会議室
5月30日	第1回評議員会 〔諮問事項〕2016年度事業報告 2016年度決算報告 短期事業計画案(2017~20年度) 〔報告事項〕2017年度入学試験結果 法人運営規模等の推移(2008~17年度)	会議室
6月30日	M号館建て替え工事竣工	
7月1日	C号館解体工事着工	
7月11日	第2回理事会 〔決議事項〕評議員人事 資産運用規程の改定 〔協議事項〕専任教職員給与体系の見直し 資産運用等計画案 大学ブランド力	会議室
11月27日	第3回理事会 〔決議事項〕次期学長任命 教員評価制度の導入	B205教室
12月28日	C号館解体工事竣工	
2018年2月7日	第2回評議員会 〔諮問事項〕役員人事 2017年度第1回補正予算案 〔報告事項〕教員評価制度の導入 評議員の選任	会議室
2月8日	第4回理事会 〔決議事項〕役員人事 2017年度第1回補正予算案 2018年度大阪音楽大学学則及び大阪音楽大学音楽専攻科規則の改定 2018年度大阪音楽大学短期大学部学則及び大阪音楽大学短期大学部専攻科規則の改定 2018年度大阪音楽大学大学院規則の改定	会議室
3月16日	第3回評議員会 〔決議事項〕学校法人大阪音楽大学寄附行為の改定 〔諮問事項〕2018年度事業計画案 2018年度予算案 〔報告事項〕常任理事の選任 2018年度入学試験結果	会議室
3月16日	第5回理事会 〔決議事項〕2018年度事業計画案 2018年度予算案 学校法人大阪音楽大学寄附行為の改定 常任理事の選任 評議員人事 〔報告事項〕2018年度入学試験結果	会議室